

文部科学省認可通信教育  
(通信教育補助教材)

# 学 習 要 項

～ 講義内容と授業計画 ～

令和2年度(2020年度)

〈生活福祉情報科〉

近畿大学九州短期大学  
通信教育部

## 目 次（通信授業科目）

### 【共通教育科目等】

1年次	・基礎経済学	1
	・ビジネス実務概論	2
	・基礎法学	3
	・生命科学	4
	・人体生理学	5
	・健康科学	6
	・IT入門	7
	・情報処理入門Ⅰ	8
	・英会話Ⅰ	9
	・日本国憲法	10
	・国語表現法	11
	・社会福祉概論	12
2年次	・情報処理入門Ⅱ	13
	・ビジネス実務演習	14
	・医学一般	15

### 【専門教育科目（必修）】

1年次	・生活福祉論	16
	・住生活論	17
	・生活デザイン論	18
	・コンピュータグラフィックスⅠ	19
	・生活情報論	20
2年次	・衣食生活論	21
	・食生活論	22

### 【専門教育科目（選択）】

1年次	・栄養学概論	23
	・情報機器	24
	・情報科学	25
	・色彩演習	26
	・ファッションデザイン	27
	・介護概論	28
	・生活デザイン基礎演習	29
	・簿記入門	30
	・社会福祉基礎演習	31
	・住居設計	32
	・健康管理学	33
	・公衆衛生学	34
2年次	・人間関係論	35
	・医療福祉管理学	36
	・医療福祉事務総論	37
	・デザイン計画	38
	・食生活実習	39
	・インテリアデザイン	40
	・医療福祉秘書学演習	41
	・医療福祉統計	42
	・医療福祉事務演習	43
	・キャリアデザインⅠ	44

## 目 次（面接授業科目）

### 【共通教育科目等】

1年次	・生涯スポーツ	45
	・IT入門	46
	・情報処理入門Ⅰ	47
	・英会話Ⅰ	48
	・国語表現法	49
2年次	・情報処理入門Ⅱ	50
	・ビジネス実務演習	51
	・医学一般	52

### 【専門教育科目（必修）】

1年次	・コンピュータグラフィックスⅠ	53
	・生活情報論	54

### 【専門教育科目（選択）】

1年次	・社会福祉援助技術	55
	・介護技術	56
	・介護実習指導演習	57
	・介護実習	58
	・色彩演習	59
	・ファッションデザイン	60
	・介護概論	61
	・生活デザイン基礎演習	62
	・簿記入門	63
	・社会福祉基礎演習	64
	・住居設計	65
	・健康管理学	66
	・公衆衛生学	67
2年次	・介護保険事務概論	68
	・介護保険事務演習	69
	・医療福祉管理特別講義	70
	・デザイン計画	71
	・食生活実習	72
	・インテリアデザイン	73
	・医療福祉秘書学演習	74
	・医療福祉統計	75
	・医療福祉事務演習	76
	・キャリアデザインⅠ	77

# 通信授業科目

<b>科目名：基礎経済学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 澁田 英敏</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>経済学の基礎知識を修得することを目的とします。卒業後も経済に関する報道を理解できるように基本的な知識を身につけてもらうための科目です。主な内容は、①市場の役割 ②政府の役割 ③金融の役割 ④経済成長と不況 ⑤国際経済になります。①は3つの経済主体の役割と市場メカニズム、②は財政政策など政府の役割、③は通貨の役割や日銀の金融政策、④はGDP、GNP、インフレーションやデフレーション、⑤は国際収支や外国為替、について理解してください。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>テキストを読めばわかるようになっていますが、さらに勉強したい人は参考文献を参考にしてください。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>テキストに記述されている指定した用語をキーワードに要点を整理し、作成してください。参考文献もわかりやすく解説しているので参照してください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>問題は、レポートと連動しています。レポート作成とあわせて学習してください。自分の考えを文章にして表現する能力を問われます。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート及び科目終末試験の結果を総合して評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：井堀利宏著『コンパクト経済学第2版』新世社 2017年  参考文献：大和総研著『入門の入門 経済のしくみ』日本実業出版 2007年  平野和之著『ゼロからわかる経済入門基本と常識』西東社 2009年  林雅巳監修・著『「経済」のしくみ基本の入門書』すばる舎 2009年  木暮太一著『子供に教える「経済学」 世界一やさしい経済の授業』青春出版社 2010年</p>	

<b>科目名：ビジネス実務概論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 吉野 美智子</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 現代社会において、ビジネスの場で求められるビジネスの基本的な知識やスキルを身につけ、実践的な実務能力を学び、仕事に取り組む姿勢やコミュニケーション能力などを養い、社会人としての役割を理解し、「仕事をする」ための基礎的知識を学び、ビジネスの社会で活躍するために「知っている」だけでなく「気づく」→「できる」までを目標としています。	
<b>【学習上の留意点】</b> テキストやインターネットで調べ、わからないことは質問してください。 ビジネス実務の基礎的な概念や基礎的素養を身につけて実社会で活躍できるようがんばってください。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキストを熟読し、作成してください。(参考文献名は記入のこと) ①1冊目 ビジネスでは第一印象の善し悪しとその後の仕事に大きく影響します。なぜ第一印象が重要なのか、相手に好感を持ってもらうためにはどのようなことが必要なのかを答えてください。 ②社外文書は企業、団体など外部に向け発信する文書で礼を失しないよう形式を踏まえて作成します。社外文書がビジネス文書の基本です。社内文書は社内間で交わされる文書で簡素化され儀礼的な要素は省略されます。社外文書と社内文書の違いを説明してください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 答えはテキストの中にあります。テキストを熟読してください。学習する中でわからないことは質問してください。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート・終末試験の結果により評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：藤村やよい編著『ビジネス実務—信頼を得ることの大切さ—』樹村房 2015年	

<b>科目名：基礎法学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：講師 清澤 亨</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>私たちの毎日の生活行為はすべてが「法律行為」であり、意識はしなくても常に何らかの形で法との関わりをもちながら生活しているわけです。そこで、本講座では、私たちの日常生活において知っておくべき基礎的な法律および法律行為の実態を学びとり、法という視点から自らの生活のあり方を思索するとともに、現代社会におけるものの見方や考え方を養っていくことを学習の到達目標としています。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>法学という学習を難しくとらえずに、毎日の生活行為の社会規範（ルール）を少しでも学問的に理解していくととらえてください。したがって、すでに認識されている社会常識がベースになりますので、それを法的視点から確認していくというつもりで学習してください。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>設問をよく読んで、設問の意図（何が問題点であり、何を問うているか）を正しく理解してください。設問の意図をつかんだら、そのことを念頭において関係する部分のテキストを熟読してください。最初は通読し、2回目からはポイントとなる部分にアンダーやマークを付けながら精読し、3回目は、重要な部分や関係する部分を書き抜きながら、レポート作成の材料集めをしていくと、大体、何を中心課題として展開していくべきかが解るはずです。</p> <p>H29年4月発行の新テキスト（全改訂版）では、冒頭の【学習指導】で、「課題レポートの作成と試験対策」が書かれていますので、よく読んでおいてください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>レポート課題となった部分から多く出題されます。したがって、レポート書きを単にテキスト等の書き写しではなく、十分理解しつつ自分の文章として書き上げていけば、それがそのまま試験のための学習にもなります。その意味から、提出したレポートの写しをとっておくのも対策の一つでしょう。設問の仕方は違っていても類似する問題があるので、問題集を分野ごとに整理しておくことが得策です。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>試験は理解度を試すものですから、少々下手な文章でも、その問題についてどの程度理解しているかが評価の基準になります。3問中2問選択、1問50点×2問＝100点（60点以上合格）</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：「基礎法学」  参考文献：テキストの巻末に紹介しています。</p>	

<b>科目名：生命科学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 高木 義栄</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 地球上には多種多様な生物が存在し、それぞれが直接的・間接的にかかわり合い、支えあって生きている。人類もその一員である。一方、人類は地球の環境に影響を及ぼし、他の生物の存在を脅かし、自らも滅ぼそうとしている。このような人類の存在を問い直し、地球における人類の本来の姿を再認識することにより、将来の実社会に役立つ科学的・生物学的知識と見識を身につける。そのためにヒトを含む生物の進化の歴史、他の生物との形態的・生理学的な比較、人体における様々な機能・しくみ、地球環境、人類と自然とのかかわりに関する様々な事柄を学び、それぞれについて説明することができるようにする。また、これらの学習をとおして宇宙船地球号の乗組員の一人であることの認識を高める。	
<b>【学習上の留意点】</b> 教科書を中心に基礎的な用語の意味や事象を頭に入れるとともに、参考文献や新聞、ネット等の関連情報に目を通しておく。特に環境問題に関するものには一通り目を通し、その原因や現状を把握すると同時に、その問題に対する自分なりの考え（解決策など）を持つようにすること。単なる言葉の意味の暗記とならぬように注意し、関連した内容とのつながりを考慮しつつそれぞれの事象の本質を理解するように努める。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> ネットを含む参考文献の文章を丸写しするのではなく、該当箇所をよく読んで整理し、テーマに沿った全体の流れを自分の言葉で表現しつつ形成する。内容によっては物語風にアレンジするのもよい。一度書いたものをそのまま提出するのではなく、数回読んでおくと、誤字や脱字、日本語としておかしい文に気づくことができる。「ウィキペディア」は内容の学術的信頼性が低いので参考にしないこと（再提出の可能性あり）。教科書、ネットを含む参考文献の丸写しがある場合、再提出とします。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 解答は文章で行い、箇条書きや図解は認めない。専門用語は漢字で正確に書き、忘れた場合はひらがなで書くこと。単なる言葉の意味だけでなく、関連した事象についても触れる。各設題に関係する部分を抜き出して、コンパクトにかつ重要事項を含むようにまとめて、自分なりの解答集を作成して記憶するとよい。「ウィキペディア」は参考にしないこと。「ウィキペディア」の内容の使用があった場合、内容によっては減点となる可能性があります。大問・小問あわせて3題しかないので、それぞれそれなりの分量で解答すること（特に(1)は1枚の半分ほどは埋める）。	
<b>【成績評価方法】</b> 科目終末試験（50%）、レポート（50%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：荒井秋晴ほか著『新版 ヒトと自然』東京教学社 2000年 参考文献：ロバート・シャピロ著『生命の起源 科学と非科学のあいだ』朝日新聞社 1988年 松井孝典著『地球＝誕生と進化の謎』講談社 1990年 松澤桂子著『卵が私になるまで』新潮社 1993年 橘川次郎著『なぜたくさんの生物がいるのか？』岩波書店 1995年 NHK取材班著『生命 40億年はるかな旅』日本放送出版会 1994年	



<b>科目名：人体生理学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：准教授 高木 義栄</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>人体生理学をとおして直接的・間接的に実社会に役立つ教養・知識を身につける。すなわち、人体の基礎知識や生理機能を理解し、ガン・エイズ・高齢化などの社会的に関心の高い問題と関連させることで実生活における人体生理学の知識の活用能力の向上をめざす。これにより、身の回りに起こりうる健康や福祉の問題を正しく理解でき、適切な対応が可能になる。また、生命科学などの関連分野の知識も含め、いろいろな生物との比較からヒトの特徴を把握し、人間中心から、よりグローバルな視野でヒトを見つめなおす姿勢を身につける。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>教科書を中心に基礎的な用語の意味や現象を把握するとともに、参考文献やネット、新聞等の情報に目を通しておく。特に生理学・医学上の新たな知見については、複数のソースから情報を得ておくこと。単なる言葉の意味の暗記とならぬよう注意し、相互に関連した内容とのつながりを考慮して生理的機能や現象を理解するよう努める。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>ネットを含む参考文献の文章を丸写しするのではなく、該当箇所をよく読んで整理し、テーマに沿った全体の流れをつくる。内容によっては小説風（物語風）にアレンジするのもよい。</p> <p>一度書いたものをそのまま提出するのではなく、数回読んでみて、誤字・脱字や日本語としておかしい文になっていないかチェックするとよい。「ウィキペディア」は、内容の学術的信頼性が低いので参考にしないこと（再提出の可能性あり）。参考文献（教科書・ネットを含む）の丸写しがあった場合は再提出とします。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>解答は文章で行い、箇条書きや図解は認めない。専門用語は漢字で正確に書き、忘れた場合はひらがなで書くこと。単なる言葉の意味だけでなく、関連する事象に留意しておく。各設題に関する部分を抜き出して、コンパクトに、かつ重要事項を含むようにまとめ、自分なりの解答集を作成してから記憶するとよい。「ウィキペディア」は参考にしないこと。「ウィキペディア」の内容の使用があった場合、内容によっては減点となる可能性があります。大問・小問あわせて3題しかないので、それぞれそれなりの分量で解答すること（特に(1)は1枚の半分ほどは埋める）。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>科目終末試験（50%）、レポート（50%）</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：磯野日出夫ほか著『図説 解剖生理学』東京教学社 1990年  参考文献：梁井貴史著『人体探訪』泉文堂 2000年  NHK取材班著『驚異の小宇宙・人体』日本放送出版協会 1993年  NHK取材班著『驚異の小宇宙・人体Ⅱ 脳と心』日本放送出版協会 1993年  堺章著『目でみるからだのメカニズム』医学書院 2000年  安藤幸夫監修『全図解 からだのしくみ事典』日本実業出版社 1992年</p>	

<b>科目名：健康科学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 堀田 亮</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ・健康維持や体力向上に対するスポーツ活動のもつ教育的意義について説明することができる。 ・「生涯スポーツ」や「Sports for all」の理念を推進していく上での条件整備の在り方について批判的に考えることができる。	
<b>【学習上の留意点】</b> テレビ、新聞・雑誌、インターネットにおける健康・体力、スポーツに関する情報（とりわけ子どもを対象とするもの）に日常的に関心に向けておくこと。 地域における様々なスポーツイベントに主体的に参加したり、子どもや高齢者、障がい者を対象としたスポーツ活動へボランティアとして参加することを通して、地域社会におけるスポーツ活動の現状に対する理解を深めておくこと。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テーマ：現代社会におけるスポーツの意義と課題 1. ①「スポーツの意義」（スポーツに期待されること）と②商業主義、勝利至上主義などの問題点と課題を指摘できるような「スポーツ」「からだ」「健康」「体育」「運動」「保健」などの語句をキーワードにした新聞・雑誌記事を収集する（インターネット検索も可）。 2. レポート作成者なりのスポーツに対する考え方を展開させやすい記事を選択し、有効に活用しながらレポートを記述していく。 3. 引用した記事をA4の用紙（レポート用紙と同じ大きさ）に貼り、レポート用紙末尾にホッチキスでとめる（収集したすべての記事を添付する必要はない）。記事の出典を必ず記入すること。 例）〇〇新聞、2014／2／12朝刊	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 上述したレポート作成の過程で、様々なスポーツ現象に関わった情報に関心に向けることが必要である。その上で、そうした情報を鵜呑みにしたり、振り回されるのではなく、自ら具体的に情報を収集し、適切な情報を選択し、自分の頭で考えながら実践していくために必要なスポーツや健康に関わった知識を獲得したり、関心・意欲・態度を身に付けてもらいたい。したがって、設題1～5では、テキストや参考文献の記述内容に頼る（引用する、丸写しするなど）だけではなく、「自らのスポーツ（健康）に対する考え方」を述べたり、「自らの体験をふまえて」解答することが求められる。	
<b>【成績評価方法】</b> <b>レポート：</b> ①記事の収集方法及び内容、②収集した記事の活用能力、③レポート作成者なりのスポーツに対する考え方の展開 <b>科目終末試験：</b> ①設題に対する理解度、②設題内容に関する論述内容、③「自らの考え方」「自らの体験」「具体的事例」の論述内容	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「生涯スポーツ・健康科学」 参考文献：玉木正之著「スポーツとは何か」講談社 酒井青樹・峯岸純子著「スロースポーツに夢中！」岩波書店 永井洋一著「少年スポーツ ダメな大人が子供をつぶす！」朝日新書 伊藤数子著「ようこそ、障害者スポーツへ」廣済堂出版	

<b>科目名：IT入門</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 日本の企業では1970年代から、会計や受発注、給与計算などにコンピュータシステムが導入され、IT（情報技術）を活用した企業運営が行われています。最近では病院にも電子カルテが広まるなど、あらゆる業種でIT活用の重要性が益々高まっています。このような状況の中、社会人はそれぞれの専門に関する知識だけでなく、情報処理全般に関する基礎的な知識と情報倫理を身につけることが必要とされています。IT入門では社会人が共通に備えておくべきITに関する基礎的な技術を理解し、それぞれが携わる業務で活躍できるようスキルを身につけることを到達目標としています。	
<b>【学習上の留意点】</b> 経済産業省が国家資格として実施するITパスポート試験の内容を参考にしています。ITパスポート試験に関する著書やウェブページを参考に学習を進めてください。自信がついた方はITパスポート試験に挑戦されてはいかがでしょうか。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> IT（情報技術）は現代の社会人にとって欠かせないものです。具体的には経営戦略やマーケティング、財務、法務など経営全般に関する知識をはじめ、情報セキュリティやネットワーク、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野を習得しておくことが必要です。 経済産業省が国家資格として実施するITパスポートを目標に学習をすすめることをお勧めします。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 経営全般に関する範囲、IT管理に関する範囲、IT技術に関する範囲の3分野があります。経営全般に関する範囲では、情報社会における企業活動の分析に必要な基礎用語や概念、新聞や雑誌で使われる基礎的な用語について出題します。IT管理に関する範囲では、システム開発やプロジェクトマネジメントに関する基礎的な用語と概念を問う問題を出題します。IT技術に関する範囲では、身近なシステムの安全な利用方法等に関する基礎的な問題を出題します。 ITパスポート試験のウェブページはとても充実していますので、過去問題をダウンロードして一度、問題にチャレンジしてください。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート・科目終末試験を総合評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：FOM出版「ITパスポート試験 直前対策1週間完全プログラム シラバスVer3.0準拠（よくわかるマスター）」2016年 1,200円（税別） ITパスポート試験、情報処理活用能力検定の過去問題をダウンロードして使用します。	

<b>科目名：情報処理入門Ⅰ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>テキストの第1章「情報処理の基礎」～第3章「ソフトウェア」を学習範囲とし、情報の意味とコンピュータの発達過程、ハードウェア／ソフトウェアについて概観します。</p> <p>演習では、Word（ワープロ）・Excel（表計算）・PowerPoint（プレゼンテーション）のオフィススイートの基本操作を習得することを目標とします。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>インターネットや雑誌などを併用し、最新技術や動向を調べましょう。大切なのは、内容を自身の言葉で説明できる程度にまで理解し検討や考察を加えることです。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>引用は最小限に抑え、書籍名だけでなくウェブページについてもURLなどを示すこと。また、必ず私見を示すように努めてください。ウェブページや書籍などの丸写し或いは酷似したレポートは無条件に不合格とします。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>教科書の内容を丸暗記するのではなく、インターネットや雑誌も活用して、自身の言葉で説明できるようになるまでに内容を習得してください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート、科目終末試験を総合評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：『情報処理入門』</p> <p>参考文献：近年のトレンドを探る上で、「日経パソコン」や「日経ネットワーク」等の雑誌をお薦めします。</p>	

<b>科目名：英会話Ⅰ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 松原 留美</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 日常生活の中でよく使われる英語表現を学び、自分自身の事を表現する事ができるようになることが目的です。この授業では保育園や幼稚園で必要となる英語を学んで行きますが、園での先生と園児または保護者とのやりとりは、日常に関するものがほとんどです。4技能をバランスよく学習し、身近な英語表現を知る事によって自分自身の英語力を高めていきましょう。	
<b>【学習上の留意点】</b> 積極的に辞書を使用しましょう。スマートフォンに辞書アプリを入れておくと気軽に検索する事ができます。スクーリングでも使用します。(電子辞書でも可)	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキスト「Happy English for Childcare」(金星堂)のUnite 1～14の中から3つUniteを選び、リスニングを含むすべての問題や課題をレポート用紙に解き、まとめてください。尚、Unite 4、6、13のいずれか一つは必ず選ぶようにしてください。Readingパートの長文は日本語訳もしましょう。その際、調べた単語やイディオムも書き入れておきます。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストのすべてのユニットから出題します。テストは単語問題、表現問題、並び替え、和訳問題の4パートとなります。テキスト内でピックアップされている単語や文章をしっかりと確認しておきましょう。	
<b>【成績評価方法】</b> 試験の成績をもとに、レポートの状況も踏まえて評価・採点されます。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「Happy English for Childcare」(土屋麻衣子著 金星堂)	

<b>科目名：日本国憲法</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：講師 清澤 亨</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 日本国憲法は、国の基本法として日本の政治と国民生活の基本的なあり方を指し示したものですから、憲法がもっとも大切にしている原理・原則は何か、そして、その原理・原則を実現するための政治のしくみはどうなっているかを体系的に学習していかなければなりません。その学習において、憲法が求めている“日本の姿”と現実社会との間にいくつかの矛盾や問題があることにきっと気づかれるでしょう。それら矛盾や問題をひとりの国民としていかに考えるか、そのリーガルマインドを養っていくのが、憲法学習の到達目標です。	
<b>【学習上の留意点】</b> 先の学習目標から、憲法学は決して覚える学習ではなく、つねに問題意識をもって自らの認識と考えをもつ学習でなければなりません。そのためには、まずは関係する憲法条項を必ず参照しつつ、その意味内容（一般的な解釈）理解し、そこでの問題としてどのような問題点があるかを認識することです。テキストは、各条項にわたっての一般的な解釈を平易に解説し、そこでの問題点を指摘してしますので、何よりもテキストを熟読することが大切です。そこで基本的なことを理解し、さらに不足分を補ったり詳しく学習するときは参考書にも手をのばしていきましょう。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 先ずは設問をよく読んで、設問の意図（何が問題点であり、何を問うているか）を正しく理解してください。設問の意図をつかんだら、そのことを念頭においてその部分のテキストを熟読してください。最初は通読し、2回目からはポイントとなる部分にアンダーやマークを付けながら精読し、3回目は、重要な部分や関係する部分を書き抜きながら、レポート作成の材料集めをしていくと、大体、何を中心課題として論じていくべきかが解るはずですが、その場合、具体例（判例）があるときは必ず参照してください。より理解を深めることができます。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> レポート課題となった部分から多く出題されます。したがって、レポート書きを単にテキスト等の書き写しではなく、十分理解しつつ自分の文章として書き上げておけば、それがそのまま試験のための学習にもなります。その意味から、提出したレポートの写しをとっておくのも対策の一つでしょう。	
<b>【成績評価方法】</b> 試験は理解度を試すものです。少々下手な文章でも、その問題についてどの程度認識し理解しているかが評価の基準になります。「六法」持ち込みによる条文引用だけでは点になりません。3問中2問選択、1問50点×2問＝100点（60点以上合格）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「日本国憲法」 参考文献：テキストの巻末に紹介しています。	

<b>科目名：国語表現法</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 皆川 晶</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な文章表現のルールを理解し、言葉を用いて豊かに表現したり、理解したりする能力を身につけることができる。</li> <li>・ 文章の構造を意識しながら読む力を身につけ、論理的に自らの意見を述べる方法を身につけることができる。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>テキストをしっかりと読んで、自分なりの感覚を大切に、日本語の理解に努めてほしい。日頃から新聞・書物に親しみ、言葉に対する感覚を磨き、多様な表現方法を理解すること。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>設題に関連する資料を探し、それらを参考にしながら自分の意見をまとめる。テキストをしっかりと熟読すること。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>試験はテキストから出題される。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>試験、レポートで評価する。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：石黒圭著『よくわかる文章表現の技術Ⅱ—文章構成編—〔新版〕』明治書院 2009年</p>	

<b>科目名：社会福祉概論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 藤村 昌憲</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>この科目は、将来、社会福祉分野に従事することを目指す方が、必要な社会福祉の基本的な事項を学ぶことを目標とします。特に、社会保障及び関連制度の概要については相当な時間を割き、そこから考えられる地域の福祉の在り方について、深く考察して行きたいと考えます。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>社会保障制度を学ぶ上でのポイントとして、また、理解するうえで欠かせないものとして社会福祉の歴史があります。日本国内の歴史にとどまらず世界的な発展史についても学習しましょう。</p> <p>この学習が、今後どのような社会保障制度が必要なのかを示唆してくれるでしょう。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>①テキストを含むテーマに関連したさまざまな書籍に目を通しましょう。</p> <p>②日頃から新聞等の福祉関係の記事に目を通しましょう。</p> <p>③インターネット等の活用は有効ですが、理解したうえで自分の言葉で記述しましょう。</p> <p>④レポートは丁寧に、また、改行等の工夫も検討しましょう。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>試験は「科目終末試験問題集」から出題しますので、それぞれにまとめて理解してください。</p> <p>テキスト、ノートの持ち込みは可とします。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>科目終末試験の結果に基づき評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：鬼崎信好編『社会福祉の理論と実際』中央法規出版 2006年  参考文献：「高齢社会白書」内閣府、「厚生労働白書」厚生労働省 各刊年  「社会福祉の動向2019」中央法規出版、「国民生活白書」内閣府 各刊年</p>	



<b>科目名：情報処理入門Ⅱ</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>テキストの第4章「ネットワーク」～第6章「オフィススイートの導入と利用」を学習範囲とし、コンピュータネットワークや情報セキュリティ、オフィススイートの利用法を学びます。</p> <p>演習では、ウェブアプリケーション等を用いたウェブページの作成、フォトレタッチソフトを用いたロゴやデジタル画像作成等、インターネットの情報発信に必要な基礎技術を習得します。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>テキストの学習だけでなく、インターネットや雑誌を利用して、最新技術や動向を調べましょう。可能であれば、パソコンを用いてスクリーニングで学習したソフトを再学習することをお勧めします。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>インターネットや雑誌の情報を単に引用するのではなく、新たな技術により受ける恩恵や起こり得る課題、課題への対策や期待できそうな効果等についての検討や考察を加えてください。レポートの評価段階では、内容の正確さよりも検討や考察の努力を重視します。書籍やウェブページの引用は最小限にとどめ、必ず引用文献やURLを示してください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>重要な用語や内容の難解な箇所について放置することなく、ウェブページや参考書等を駆使して、理解できるまで調べ上げる努力をしてください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート、科目終末試験等を総合評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：『情報処理入門』</p> <p>参考文献：近年のトレンドを探る上で、「日経パソコン」や「日経ネットワーク」等の雑誌をお勧めします。</p>	

<b>科目名：ビジネス実務演習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 吉野 美智子</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 社会、職場での人間関係を重視し、円滑な人間関係が送れるように、第一印象を良くし、ビジネスコミュニケーション能力を高めることを意図しています。 実社会で尊敬され信頼されるビジネスパーソンになるためには、社会人としての役割を理解し、基本的なマナーを身につける必要があります。 ビジネスパーソンとしての自覚、身だしなみ、あいさつ、言葉遣い、ビジネス文書、訪問のマナー、電話対応のマナーなど、ビジネスマナーの基礎を身につけてください。	
<b>【学習上の留意点】</b> ビジネス実務の基礎的な概念や基礎的素養を身につけて実社会で活躍できるように学習してください。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキストや参考文献を熟読し、設問に沿ったレポートを作成してください。ビジネスパーソンとして文書作成能力は重要になります。文書の構成や誤字脱字には細心の注意を払ってください。(参考文献等は必ず記入しなさい)	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 試験はテキストに沿って出題しますが、スクーリングで詳しく解説します。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート・終末試験の結果により評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：藤村やよい編著『ビジネス実務－信頼を得ることの大切さ－』樹村房 2015年	

<b>科目名：医学一般</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 池田 あずみ</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>健康管理学で学んだことを基礎として、医療従事者として知らなければならない一般的な医学の知識を体系的に学ぶことを目標とします。一般的な医学の基礎知識を理解し、看護や臨床検査の概要、臨床基礎データの意味、さらには広く健康状態や疾病などを理解し、医療機関における実務に応用しえる能力を養います。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>おもに、解剖生理学について理解を深めていきます。インターネットや雑誌、テレビなどで知識を増やしていくと実生活にも応用できる力が身についていきます。内容は多岐にわたるため学習の量は多いですが、興味をもった事柄から深めていくと、理解しやすくなるでしょう。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポートを書く場合には、まず論題にしたがって何を書くかを選択し、データや資料を集めます。ついで論旨が明確になるように、論文の組み立て（起承転結）を考えます。いきなりレポート用紙に書かずに、一度、別の用紙に原稿を書き、繰り返し読んでみます（一日ほど経ってから読み返すと良いでしょう）。要は他人が読んでも理解してもらえる文章、理路整然とした文章を心がけることです。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>試験は、語句や現象の説明などの記述問題です。教科書に沿って出題しています。日頃から専門用語の意味を十分理解するように、また、インターネットや新聞等で、医事問題、医療事故、健康問題などに目を通すようにつとめてください。テキスト・ノート・参考書籍持ち込み可なので、自分なりに簡潔に説明できるようにまとめておきましょう。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポートと試験に基づいて評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：医療教育協会著『医学一般』医療教育協会  参考文献：竹内修司監修『“からだのしくみ”がよくわかる人体ぬりえ』PHP研究所 2007年  大橋健一ほか著『疾病のなりたちと回復の促進 病理学』医学書院 2015年</p>	

<b>科目名：生活福祉論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：教授 澁田 英敏</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 21世紀を迎え、社会福祉の世界では様々な改革と創造が進められようとしています。社会福祉関係八法の改正後、介護保険法の制定や児童福祉法改正などと連動して措置による福祉サービス提供の枠組みが見直され、日本の社会福祉は段階的に利用者本位の制度への転換が始まっています。このような福祉改革のなかで形成されたサービスの普遍化、自立支援、地域福祉の推進、住民参加などを我々の身近な暮らしにおいて具体的に実現していく必要があります。また介護をめぐる動きも急速に変化を見せ、介護の社会化というべき時代のなかで年々多くの人々が介護福祉分野に関心を持ち始めています。介護は人が人として生きるために不可欠なものであり、その本質は優しい心に基づく「お世話」です。そして、福祉とは人々の幸せと希望を語り、それを実現していく営みです。 本科目では、そうした基本的な視点から社会福祉について概説し、必要な基礎知識を習得することを目標としています。	
<b>【学習上の留意点】</b> 近い将来、日本は国民の4人に1人が高齢者となる超高齢社会となります。身につけた知識はプライベートでも必ず役に立つはず。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキストをよく熟読し、「社会福祉」について理解に努めてください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 社会福祉関連法とその内容について学習しておいてください。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート及び終末試験の結果を総合して評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：澁田英敏著『生活福祉論』 参考文献：鬼崎信好編『社会福祉の理論と実際』中央法規出版 2006年	

<b>科目名：住生活論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 豊増 美喜</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会における住まいにかかわる諸事象の中から、住生活の側面のいくつかを概観することにより、家庭生活を入れる容器としての住居のあり方について理解する。</li> <li>・ 健康的で快適な住生活を送るため、必要となる住まいの住環境に対する基礎的知識を習得し、その知識を住まいの計画に取り入れる应用能力を習得する。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>学習において、住まいの地域性や歴史的な背景や現代社会の諸問題を通して考察すること、また、住まいの室内環境に関する基礎的知識を習得し応用する能力を習得することが重要であるから、各自の住まいや近隣の住まいにおける諸問題を理解し、日常的に住まいについて、興味・関心を持ち、問題解決の視点を探るよう心がけるとよい。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1冊目のレポートは、テキスト「第Ⅰ部 住居と住生活」を読み学習した後に作成すること。学習内容が読み取れるように、テキストの各章について偏りのないように、重要な箇所を要約するように作成すること。</li> <li>・ 2冊目のレポートは、「第Ⅱ部 室内環境と住生活」の部分を読み学習した後に作成すること。日照、光、温熱、空気、音の各分野について、室内環境を考える上で大切である事柄をまとめること。</li> <li>・ 1冊目、2冊目ともに、住生活を現在住んでいる住宅との関係から考えるのに良い機会であるため、身近な問題とテキストで得た知識を絡めて考察しても良い。</li> <li>・ 文献やインターネットから安易に丸写し（コピー&amp;ペースト）せず、自分の言葉でレポートを作成すること。また、「ですます」調でなく、「である調」に統一すること。</li> <li>・ 参考文献を記述すること。</li> </ul>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>テキストを熟読すること。その際、各章ごとにその要約を試み、設問に対する知識と考えをまとめておくこと。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>テスト（記述式）を実施する。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：「住生活論」          参考文献：最新住居学入門（後藤久監修 実教出版）          生活と住居（定行まり子 沖田富美子編著 光生館）</p>	

<b>科目名：生活デザイン論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 有田 信夫</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>これから生活デザインを勉強する人に、生活デザインとは何か。また、生活デザインの分野について解説します。また、近代の歴史の中で、各国それぞれに生活空間や生活機器がどのようにデザインされてきたかを学びます。</p> <p>以上生活デザイン論について学ぶことによって、今日のデザインを検証し、明日のデザインのあり方を創造する目を養うことを目標とします。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインについて自分の考えを持つことが出来るように努力してください。</li> <li>・レポートの課題にそってテキスト、参考文献をよく熟読し、1,500字にまとめることが出来るようにしてください。</li> </ul>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>&lt;1冊目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの1章から4題、参考資料から1題を選択問題として出題します。</li> <li>・出題の範囲をしっかりと読み、テキストの巻末にあげられている参考文献を1、2冊読み込み、学習した内容について1,500字にまとめて記述してください。</li> </ul> <p>&lt;2冊目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2章にとりあげている近代の歴史の中から選択問題として出題します。</li> <li>・よくテキストを熟読し、巻末の参考文献も1、2冊よく読み込み、1,500字にまとめて記述してください。</li> </ul>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験に関しては、レポート課題に関した分野から出題します。</li> <li>・レポートの時しっかりと勉強して、うまく活用してください。</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>提出レポート（40%）  科目終末試験（60%）</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：『生活デザイン論』  参考文献はテキストの巻末に記載しています。</p>	

<b>科目名：コンピュータグラフィックスⅠ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 西中 潤</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<p><b>【教育目標及び到達目標】</b></p> <p>最近ではコンピュータグラフィックスという言葉も特別な用語ではなくなりました。これはIT技術の進歩にもなって文字データや数値データだけでなく、これまで取り扱いが難しかった画像データも簡単に取り扱えるようになったからです。コンピュータグラフィックスⅠはこのような時代に最も合致した科目のひとつです。情報を伝える場合、文字だけの情報より、ちょっとしたグラフやイラストを添えることでスムーズに情報を伝えることができます。</p> <p>面接授業ではパソコンを利用したデザインワークについて学習します。デザインの基本となるレイアウトや色の知識、アプリケーションソフトの活用法について理解を深めます。授業を通して画像データを自由に使いこなし、情報を的確に伝えることができるようになることがコンピュータグラフィックスⅠの到達目標です。</p>	
<p><b>【学習上の留意点】</b></p> <p>面接授業ではアドビ社のイラストレータを使用します。キー操作などパソコンの基本については各自練習しておいてください。コンピュータについての基礎知識はこれからの社会生活に必要なものと言えるでしょう。コンピュータグラフィックスⅠではおもに画像データの取り扱いについて学習を進めます。データの保管・管理等についても説明しますので知識を身につけてください。</p>	
<p><b>【レポート作成上のアドバイス】</b></p> <p>コンピュータグラフィックスⅠでは画像データやイラストなどをパソコンで加工・修正・編集する仕組みについて学んでいきます。面接授業の課題はイラスト作成などを準備しています。丁寧な指導を心掛けますので、わからない箇所は気軽に質問してください。課題レポートには面接授業で苦勞した点なども記入してください。</p>	
<p><b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b></p> <p>試験問題はすべて教科書に掲載されている範囲です。教科書をしっかり読み準備してください。</p>	
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <p>レポートと科目終末試験により総合的に評価します。</p>	
<p><b>【テキスト及び参考図書】</b></p> <p>テキスト：「コンピュータグラフィックス」</p>	

<b>科目名：生活情報論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 私達の生活の周辺は多くの情報が満ちあふれています。高度情報化社会では、情報が価値を持ち、情報と関わりを持たずに生活ができなくなっています。すなわち、生活に必要な情報は、いつでもどこでも利用することができます。この教科では、日常生活の中で高度化された人間生活に関する情報を理解し、進展する情報化社会の将来に主体的に対応できる能力を養成します。	
<b>【学習上の留意点】</b> スマートフォンやSNSの浸透により、「情報」との関わり方が大きく変わりつつあります。また、利用に伴う危険性等の新たな問題点も顕在化しており、一人一人が適切な知識を持ってこれらを利用することが必要になっています。テキストを単に読むのではなく、ニュースや新聞・雑誌等に幅広く目を通し、「情報」について多方面から考察するようにしてください。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 私達が、個人・家庭・企業及び地域社会での生活を送っていく上で、どのような情報が重要でどのような情報が重要でないかを主体的に選択し判断できることが、社会に貢献できる人材となるために最も大切であると考えます。このために、個人・家庭・企業及び地域社会にはどのような情報があり、自分の生活にどのような影響を及ぼしているかを自分の意見としてまとめてください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストの文章を暗記するのではなく、情報の価値や意味について深く考えるよう日頃から努めるようにしてください。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート課題と科目終末試験により総合的に評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『生活情報論』 参考文献：「日経パソコン」や「日経ネットワーク」等の日経系雑誌、また「PC Online」( <a href="http://pc.nikkeibp.co.jp/">http://pc.nikkeibp.co.jp/</a> )等のホームページ等がお薦めです。	



<b>科目名：衣生活論</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 上原 真樹</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 衣服本来の役割や機能を学習し、豊かな衣生活に必要な知識を習得する。 グローバル化や高齢化に対応する問題解決できる能力を身につける。	
<b>【学習上の留意点】</b> 人と衣服のかかわりを理解し、西洋と日本の歴史的背景の関連を学び、考察する。衣服の構造改革が進む今日、購入から管理までを考慮した安心・安全な衣生活を提案できる知識を習得する。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキストの各章を熟読し、参考書やネットなどからの情報を参考にして諸問題を理解し、自らの思考により解決する視点を探ること。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストを熟読し、基本的な事柄を学習して理解を深めること。	
<b>【成績評価方法】</b> テキストの理解度、衣生活の現状と問題点、豊かな衣生活の提案までを評価とする。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「衣生活論」 参考文献：テキスト掲載の参考図書103ページ	

<b>科目名：食生活論</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：教授 八尋 美希</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 衣食住は人の生活の基本となるものであり、その一つの柱である食を広い視野に立って学ぶものである。日頃の食事のスタイルや選んでいる食品を振り返り、現在の食生活を把握し、バランスのとれた食事をとるための食品の特徴を学び、実生活に役立つ知識を習得する。 これから自分自身や家族がどのような食事をすればいいのか考える態度を育てることを目標とする。	
<b>【学習上の留意点】</b> 食事は毎日のことですので、この科目をきっかけに食に興味・関心を持ち、生活を振り返るようにすること。練習問題を各自で解き、わからない箇所をもう一度テキストを読んで理解するように努めること。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> レポート作成では、テキストの基本用語や記述について引用することもあるでしょうが、それらを基礎とし自分の意見をまとめるようする。その際、言葉の語尾（～です、～だ）の文体を統一するようにする。次に段落の使い方に気を付けること。一つの段落の中で何を述べたいのかを決め、そのことを裏付けるように内容を組み立てましょう。 <1冊目> テキスト第2章 第3節の表を利用して自分の3日間（連続しなくてもよい）の食生活を書き出してみよう。バランス良く、食事をしていましたか。その3日間は普通の日だったのでしょうか。自分の食事にはどのような特徴がありましたか。食品群（4つの食品群、または六つの基礎食品群）を使って説明しなさい。その際、自分の食事について気づいた点、改善すべき点を説明しなさい。 <2冊目> 1. 植物性食品とはどのような食品がありますか。それらはどのような栄養素をそれぞれ多く含んでいるかを述べましょう。食品の数は多いため、代表的な旬の食品をいくつか選んでレポートしてください。 2. 動物性食品も植物性食品と同じようにレポートしてください。ただし肉類については旬ではなく、よく消費されると思われる部位についてあげ、レポートしてください。 3. 調味料・香辛料の役割について歴史的観点も加えて説明し、効果的な利用法や期待される利用法を説明しなさい。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> ・各試験問題について、用語や栄養素その働きについて押さえ、食品の特徴をまとめておき、何度も見直してみる。	
<b>【成績評価方法】</b> ・自分の食環境から課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めているか。 ・解決のために積極的に必要な知識や情報を取り入れようとしているか。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『食生活論』 参考文献：『七訂食品成分表』※この出版社のものでも構いません。 中島肇、佐藤薫編「食品学Ⅱ 食品の分類と特性・用途を正しく理解するために」化学同人 石本祐子他著「最新 食品学」講談社 中山勉／和泉秀彦「食品学Ⅱ 改訂第3版」南江堂 西日本新聞社「食とくらし」取材班著 『食卓の向こう側』（各シリーズ）西日本新聞社	

<b>科目名：栄養学概論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：教授 八尋 美希</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 健康である毎日であっても、病気になった時にそのありがたさがわかる。最近の日本人に栄養摂取状況を見ると、栄養素の欠乏から栄養素の過剰摂取へ移行する傾向にあることがわかり、しかもこれらが引き起こす生活習慣病が問題となってきた。栄養学概論では過去の栄養や食品の摂取状況と代表的な栄養素である五大栄養素の働きを理解し、各ライフステージ毎にその特徴を捉え、それらの知識を食生活に活かし、健康の保持・増進を生涯を通して解決出来る能力を身に付けることを到達目標とする。	
<b>【学習上の留意点】</b> テキストの用語をただ覚えるのではなく、日常の食事内容と具体的に照らし合わせて捉えるようにする。自分のこれまでのライフステージでの食事を思い出し、これからのライフステージの食事を予測しながら取り組むとよい。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <1冊目> 生活習慣病（成人病）とはどのようなものか、何が原因で起こるのかを食生活の面から考えてほしい。そのために日本人の疾病構造や食物の摂取状況から考察し、さらに食事と栄養のかかわりを述べるようにするとよいでしょう。特に5大栄養素のはたらきを熟読して、肥満を予防するための食生活についてまとめてみましょう。 <2冊目> テキストではライフステージを6つに分類しています。したがって、ライフステージごとの特徴を栄養面を中心にまとめ、健康と食事について考えてみましょう。自分自身の食生活の例を挙げるなど具体的に書いてみましょう。また、参考文献は何でも構いませんが、丸写しのないよう自分の言葉で報告してください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 試験問題に対して、自ら要点をまとめノートを作成してみる。テキストに書かれた内容に対して理解し、説明ができるかを問うものである。また、用語の内容も理解し、簡潔に記述をすることが大切である。	
<b>【成績評価方法】</b> 栄養素や各ライフステージについての栄養の特徴を理解し、説明が出来るか。 食事の例を具体的にあげ、それらと栄養および生活習慣病との関連の説明を基礎知識と共に説明出来るか。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『栄養学概論』 参考文献：中村丁次 監修『栄養の基本がわかる図鑑事典』 夢プロジェクト 編集『一番わかりやすい栄養学の本』 小林修平 編著『健康づくりの栄養学』 北島幸枝編『応用栄養学』化学同人	

<b>科目名：情報機器</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>コンピュータは、中央処理装置（CPU）が処理の中心を担っていますが、中央処理装置だけでは実用にならず、キーボードやディスプレイ、更にはプリンタやデジタルカメラ等の周辺装置を組み合わせたシステムとして利用されます。本科目では、パソコンシステムを構成する機器の詳細を理解することを目標とします。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>最新の動向を調査することに注力してください。これには、インターネットや雑誌を活用するのがよいでしょう。また、実際に販売されているプリンタやデジタルカメラ等のカタログを入手し、スペック（仕様）表に記載されている各項目を細かく調べることも大変有効です。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>インターネットや雑誌等から得た情報を単に転写するのではなく、内容を十分に理解し、自身の言葉で説明できるようにしてください。採点に当たっては、内容の正確さよりも、自身の意見や考察がどの程度加えられているかを重視します。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>テキストの文章を暗記するのではなく、インターネット等を駆使して、真に内容を理解するように努めてください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート課題と科目終末試験により総合的に評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：『OA機器』  参考文献：「日経パソコン」や「日経ネットワーク」等の日経系雑誌、また「PC Online」(<a href="http://pc.nikkeibp.co.jp/">http://pc.nikkeibp.co.jp/</a>)等のホームページ等がお薦めです。</p>	

<b>科目名：情報科学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 現代社会はすでに高度情報化社会に入っています。このような時代に「情報」の取扱いに習熟するだけでなく「情報」に関する見識（知識とそれに裏付けられた見解）をもつことは現代社会に生きる者にとって不可欠です。したがって、ここでは社会人として必要な「情報」について見識を身につけることを目標とします。	
<b>【学習上の留意点】</b> 情報科学は日進月歩の分野なので、インターネットや雑誌等を活用して、常に最新の情報を入手することに努めてください。また、疑問が生じた場合は放置せず、書籍やインターネットの情報を駆使して解決する姿勢が肝要です。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> インターネットや雑誌等から得た情報を単に転写するのではなく、内容を十分に理解し、自身の言葉で説明できるようにしてください。採点に当たっては、内容の正確さよりも、自身の意見や考察がどの程度加えられているかを重視します。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストの文章を暗記するのではなく、インターネット等を駆使して、真に内容を理解するように努めてください。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート課題と科目終末試験により総合的に評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『情報科学』 参考文献：「日経パソコン」や「日経ネットワーク」等の日経系雑誌、また「PC Online」( <a href="http://pc.nikkeibq.co.jp/">http://pc.nikkeibq.co.jp/</a> )等のホームページ等がお薦めです。	

<b>科目名：色彩演習</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 有田 信夫</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 私たちは、毎日たくさん色を目にして生活しています。人の顔を見て人相という様に、色にも色相があります。また人にもそれぞれ個性がある様に色にもそれぞれ特性があり、多くのメッセージを送っています。色彩に対する知識を深め、色を上手に使いこなすことができるようになれば、自分をより一層魅力的に見せられることはもちろん、色のパワーに癒されたり、元気づけられたりすることがあります。まず色のしくみについて理解をし、演習を通じて体得していきます。	
<b>【学習上の留意点】</b> テキスト（生活デザイン演習のp96から巻末まで）の講義内容にそって熟読し、課題を制作してください。また課題の番号が付いた四角い枠にカラートーンを切って、貼ってください。面接授業の時にカラートーンを貼っていると即座に色彩の文法といろいろな使い方が分かります。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> まずテキストの演習①（p96）、演習②（p97）は番号がついているところだけ色紙を切って貼ってください。このようにしてp103まで行ってください。P104以降も左端の番号がついているところだけを色紙の番号をよく見て間違えないように貼ってください。次に巻末の1、カラー・システム（色相）の番号の色紙も貼ってください。1、カラー・システム（トーンのイメージ）も番号を間違えないように貼ってください。以上のことが終わった方だけ面接授業を受けてください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 成績は課題作品で評価するので科目終末試験は行いません。	
<b>【成績評価方法】</b> 課題作品（50%） 面接授業の課題作品（50%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「生活デザイン演習」 テキストの巻末の参考図書の欄を参照してください。	

<b>科目名：ファッションデザイン</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 加來 卯子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ファッションデザインの基本となる事柄を学び、ファッションの果たす役割と効果について認識を高める。自己表現となる適切なファッションを選択するために必要となる、バランス美を備えたファッション感覚の能力を身につける。	
<b>【学習上の留意点】</b> ファッションデザインのみならず、広くデザイン分野の知識・技能を習得する。 ファッション感覚を高めるために、美術やデザイン全般に感心を持ち、美的センスを磨くこと。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキストの各章を熟読し、雑誌、TV、ネットなどからの情報を参考にして分析し、自らの視点で作成すること。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストを熟読し、基本的な事柄を学習して理解を深めること。	
<b>【成績評価方法】</b> テキストの理解度。面接授業は、ファッションデザインの知識と感性のバランス力を高めるビジュアル・プレゼンテーションの表現方法（演習）を評価。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「服飾デザイン」 参考文献：テキスト掲載の参考図書110ページ	

<b>科目名：介護概論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 土居 孝男</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ・人が個人として尊重され、地域社会とのつながりを保ちながら可能な限り自立した日常生活が送れるよう支援するための基本的援助方法を学習する。また、講義と合わせて実際の事例を通じたグループ討議を積極的に行い、個別的な援助を行う重要性を理解する。	
<b>【学習上の留意点】</b> 講義や演習で学んだことの振り返りを行い、今後自身がどのように活用していくかを考えること。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> レポート作成においては、テキスト及び参考文献等の内容を簡潔にまとめた上で、必ず自身の考えを書いてください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 使用するテキストの該当箇所を熟読し、介護に関するテレビ・新聞等の最新情報に対し、常に関心を持っておいてください。	
<b>【成績評価方法】</b> 通信授業と面接授業の試験結果を総合して評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：介護職員初任者研修テキスト編集委員会編『介護職員初任者研修テキスト』（最新版）介護労働安定センター	



<b>科目名：生活デザイン基礎演習</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 有田 信夫</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> デザインの基礎演習である表現技術の習得と基礎デザインの制作である。デザインをする者は頭の中で浮かんだイメージやアイデアを即刻描写出来、造形していく能力が必要である。その為には、まずデザインに使われる用具や技法を知り、表現技術を習得し、表現に関する原理を学び、自然を観察する目を養うことである。自然ほどすぐれた形態と色を持った対象物は他にない。演習では表現する為の用具や表現技法、自然観察、スケッチ技法、造形の要素について解説し、演習を通じて、鋭い観察力、表現力を高め、造形的に優れた感性を育てることを目標とする。	
<b>【学習上の留意点】</b> 演習では、作品を制作していく過程のなかで思考し、造形力を体得していくことが大切である。	
<b>【作品作成上のアドバイス】</b> まず、テキストの演習課題1から演習課題17までを参考作品を目標にしながら、どんどん制作してください。 ・生活デザイン基礎演習の作品提出方法について ①演習課題1から17を全部と演習課題18～29の中から3題を選択 ②演習課題1から17を全部と演習課題30～40の中から3題を選択 ①または②のどちらかを面接授業終了後に作品を制作し、一括して提出してください。(面接授業の時に描き方や観察の仕方を伝授いたします。)  ・デザインの基礎は一枚でも数多く作品を描き、作品について自分自身で考えることが出来、自己チェック能力を身につけることです。最後まで意欲的に取りくんでくだされば、それだけ成果が得られるように、計画をしております。健康に留意されて、頑張ってください。	
<b>【成績評価方法】</b> 課題作品 (80%) 課題作品に取り組む意欲 (20%)	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：「生活デザイン演習」	

<b>科目名：簿記入門</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 岩武 一郎</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義においては、簿記の基本的な考え方である簿記一巡の手続きや、簿記の基本的なスキルである仕訳の考え方を理解する事を教育目標とする。</li> <li>・簿記については、日商簿記検定3級レベルの会計処理ができるようになる事と、簿記の目的である貸借対照表と損益計算書の役割に関するレポートが作成できるようになる事を到達目標とする。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記は、その内容を理解する事も大切ですが、会計処理を何度も練習してはじめて、実際に使える技術となる側面ももっています。</li> <li>・従って、簿記の学習にあたっては、自ら電卓をたたいて数字の処理になれ、仕訳の反復練習を通して、簿記の技術を自らのものとしてください。</li> </ul>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接授業において、簿記の目的について解説を行いますので、その理解を基礎としてレポートを作成してください。</li> <li>・レポート・小論文の作成にあたっての一般的な解説書が販売されていますから、一度目を通すことをおすすめします。</li> </ul>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目終末試験はテキスト各章末の「練習問題」に準拠した内容により出題されます。講義で内容を理解したら、何度も解き直しを行いましょう。</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートと科目終末試験により総合的に評価する。</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：穂坂治宏『新なるほど合格塾日商簿記3級』中央経済社  参考文献：末永英男・北口りえ・岩武一郎著『基礎簿記入門』中央経済社  電卓（10桁以上のもの）を用意</p>	

<b>科目名：社会福祉基礎演習</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 藤村 昌憲</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>社会福祉を取り巻く環境の変化に対し、国民の福祉需要の増大・多様化に適切に対応するため社会福祉基礎構造改革が進められています。この改革においては、利用者本位の利用制度への転換、社会福祉事業の推進、地域福祉の充実と並んで、質の高い福祉サービスの拡充を図ることが改革の大きな柱のひとつとなっています。いうまでもなく、福祉サービスの質の向上を図っていくためには、その担い手となる人材の質の確保・向上が不可欠です。</p> <p>そこで、本科目では福祉サービスの提供において中心的な役割を果たす介護職員など福祉専門職を目指す人にとって必要な社会福祉制度に関する基本知識の習得を目標としています。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>高齢者や障害者の方から相談されても適切な対応ができるように正しい知識を身につけてください。近い将来、日本は国民の4人に1人が高齢者となる超高齢社会となります。身につけた知識は介護職員の仕事以外（プライベート）でも必ず役に立つはずです。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>適切な援助を提供するためには援助対象者の理解が不可欠です。  「介護職員初任者研修テキスト」を熟読してください。  レポートの作成にあたっては、自分自身の身近な体験談など具体的な事例をあげてください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>科目終末試験問題（4問）の中から2問出題します（No.1 は必ず出題）。持ち込みは一切禁止します。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>通信授業と面接授業の試験結果を総合して評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>介護職員初任者研修テキスト編集委員会編『介護職員初任者研修テキスト』（最新版）介護労働安定センター  「厚生労働白書」厚生労働省 各刊年、「社会福祉用語辞典」中央法規出版</p>	

<b>科目名：住居設計</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 豊増 美喜</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の住まいについて、生活を空間に結びつけて考え、基礎的知識と表現する方法を理解する。</li> <li>・住居の設計について、気候、風土、家族の状況、生活の仕方や考え方、価値観などさまざまな要素をふまえながら、住空間を計画する技能を習得する。</li> <li>・住空間の計画を図示する上で必要な製図の知識を習得し、簡単な設計製図の製作を通して、基礎的スキルと表現能力を獲得する。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>住居の設計にあたって、最も基礎となる平面計画に必要な知識、間取りの考え方や動線計画、敷地との関係、更に設計に必要な確執についての知識や住宅の構造について理解する。次に、立体を図示する方法として、基礎的知識となる投影図法について理解し、その図法と住居図面との関係、また、住宅の主要図面の種類について学んでいく。これらの学習を深めるためには、住居に関する雑誌、広告の図面などを利用し、空間のつながりや間取り、図面の種類などについて考えることが望ましい。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>レポートの設題は自由度のきく問題をあげているが、テキストをふまえて、生活と空間との関係を把握してレポートを作成すること。この科目は、住居の建設ではなく、設計について考えるという主旨を外れないようにすることも必要である。テキストの住居設計の知識を基礎として、習得した学習内容がレポートに表れるよう、自分の考えをまとめ、自分の言葉で書くこと。なお、レポートは「ですます」調でなく、「である」調を用い、原稿用紙の使い方にも留意すること。  参考文献も記載すること。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>テキストを熟読し、各章ごとにその要約を試みて設問に対する考えと知識をまとめておくこと。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>テスト（記述式）を実施する。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：「住居設計」  参考文献：最新住居学入門（後藤久監修 実教出版）</p>	

<b>科目名：健康管理学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 池田 あずみ</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 健康は誰しも望むところではあるが、この健康を医学、生物学的な側面からとらえれば、生理・栄養・運動などの問題である。しかし精神的な側面からとらえれば生の問題であり、さらに死の問題をも含む。社会の多様化に伴い、我々の生活環境には身体と心の健康に対する様々な危険因子が潜んでいるといえる。そのあるものは回避できるが、あるものは回避困難なものがある。 この科目では、このような複雑な生活環境の下で快適な生活を営むためには、どのような健康管理を必要とするか、そのために必要な知識を学ぶ。	
<b>【学習上の留意点】</b> 健康について考えていきます。疾病の予防や健康の管理方法など、自分の生活にも興味をもち、インターネットや雑誌、テレビなどで知識を増やしていくと実生活にも応用できる力が身につけていきます。超高齢化社会とよばれる時代です。内容は多岐にわたりますが、日頃から興味を持って取り組むと、理解しやすくなるでしょう。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <b>設題1</b> 健康を保持するための留意点です。現代の社会問題を次の3つの観点からまとめてください。 ① 食事    ② 運動    ③ その他の因子 「健康管理学」のテキストだけでなく、食と健康、健康科学、健康教育なども参考になります。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 試験は教科書にそって出題します。日頃から専門用語の意味を理解するように、またインターネットや新聞等で、健康問題などに関連のある事項に目を通すようにつとめてください。テキスト・ノート・参考書籍持ち込み可なので、自分なりに簡潔に説明できるようにまとめておきましょう。	
<b>【成績評価方法】</b> レポートと試験に基づいて評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『健康管理学』 参考文献：木村康一ほか著『学生のための健康管理学』南山堂 2012年 岸玲子ほか著『NEW予防医学・公衆衛生学』南江堂 2012年	

<b>科目名：公衆衛生学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 辻 雅善</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生学及びその必要性について説明できる。</li> <li>・人々の健康が自然・社会・文化的環境と深く関わっていることが理解できる。</li> <li>・健康管理・疾病予防・疾病の早期発見・環境保全について説明できる。</li> <li>・これからの公衆衛生上の諸問題や解決策を考察できる。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>公衆衛生という言葉は日頃あまり耳にする事がなく難しいと思われがちですが、私達の日常生活の上で身近な事です。環境問題・健康問題等情報は沢山あります。日頃から関心を持って情報をキャッチするように心掛けてください。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>課題をよく読みその意味を理解してください。大きなテーマなので何から学習すればよいのか迷われると思いますが、まずテキストをしっかりと読んでください。その上で参考文献やインターネットから情報収集をすると理解できると思います。自分の考えを自分の言葉で表現しテキストやインターネットからの情報の丸写しにならないように注意してください。論旨が明確に伝わるように「起承転結」に心掛けてください。書いた文章は少し時間をおいて読み返すと間違い部分がよくわかります。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>日頃から新聞、テレビ、インターネットに目を通し公衆衛生上話題となっている情報を整理し学習しておくと思えると思います。まずはテキストをしっかりと読み理解してください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>出席状況・試験・レポートの内容により評価いたします。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：清水忠彦・佐藤拓代編「わかりやすい公衆衛生学」ヌーヴェルヒロカワ  参考文献：石川哲也他著「イラスト公衆衛生学」東京教学社  鈴木庄亮他監修・編著「シンプル公衆衛生学」南江堂  厚生労働省編「厚生労働白書」  厚生労働統計協会編「国民衛生の動向」「厚生指標」 他</p>	

<b>科目名：人間関係論</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 森口 満里</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 現代は人間砂漠化といわれる兆候を顕わにし、人々は人間的結びつきを希薄化し、自己疎外に陥るなどのこともある。 本講義は個人の自然環境や社会環境との関係、チームや組織作りにおける相互関係、自己実現の意味、社会、国家、世界との関係、国際化・情報化への対応等の問題について考えを深め洞察力を養うことを狙いとしている。	
<b>【学習上の留意点】</b> レポートの作成および試験においては、できるだけ自らの考えを明確にし体験等を踏まえ具体的に論述してほしい。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> ・教科書の内容の理解 ・課題の趣意の把握 ・レポート作成の準備 ①何を書くか問題意識を明確にする。 ②全体の構成を考える。 ③論理的に叙述する。 ④結論を考える。 ⑤参考資料や引用があれば明記する。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストをよく読み新聞雑誌等にも目を通し、今日の人間関係の状況の認識に努めること。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート、科目終末試験を総合し行う。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『人間関係論』 参考文献：テキストの巻末の参考文献を参照のこと。	

<b>科目名：医療福祉管理学</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 池田 あずみ</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> ・将来医療職に就こうとする人々、また医療に関わりのある職業に就こうとする人々に、病院とは、病院の倫理、医療職員に求められる条件・倫理、医療秘書の概念・実務、病院における接遇、病院の組織・役割・業務、医療管理とは、病院事務管理、医療事務と法規、医療保険に関する法規、健康保険法、診療に関する事務業務等について学習する。 ・病気を持つ高齢者、病気による障害を持つ人々に、真心をもって親切にできる人を育成する。	
<b>【学習上の留意点】</b> 医療・福祉施設での幅広い知識と、現場で貢献できる人材育成の基本的なことを自分なりに考えられるよう、文献などを熟読し取り組んでください。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> レポートの設題は、テキストを基本にしています。テキストを熟読してください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 試験に関しては、レポート課題に関連した分野から出題します。テキストからの基本的な知識や、文献からの資料を学習してください。	
<b>【成績評価方法】</b> 提出レポート・科目終末試験に基づいて評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：医療教育協会著『メディカルシステム論』医療教育協会 参考文献：飯田修平編著『病院早わかり読本』医学書院 2011年	



<b>科目名：医療福祉事務総論</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：2単位</b>
<b>担当：非常勤講師 池田 あずみ</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この学科では、医療管理学の主要な部分として、医療事務に携わる人に必要な医療施設について、病院における倫理・接遇、病院管理等を学ぶ。</li> <li>・医療従事者としての、一般医学の簡単な基礎知識を学ぶ。</li> </ul>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>様々な現場における事務の知識を学習した上で、医療や福祉などの施設での仕事に従事することをふまえた専門的な知識を身につけることが重要です。</p> <p>日常生活を送りながら、関心を深めていくと普段は耳慣れない専門用語なども理解しやすくなるでしょう。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器系に属するものはどんなものがあるのか。心臓、動脈、静脈、リンパ管、毛細血管など、それらの簡単な構造や働きについて説明してください。</li> <li>・消化器系に属するものはどんなものがあるのか。飲食物が人間の体内に摂りこまれ、体外に排出されるまでの簡単な構造やはたらきについて説明してください。</li> <li>・インターネットや雑誌なども利用して、知識を増やしてってください。</li> </ul>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>テキストや参考書、インターネット等で自分なりに知識を増やしてください。テキスト・ノート・参考書持ち込み可なので、自分なりに簡潔に説明できるようにまとめておきましょう。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>提出レポート・科目終末試験に基づいて評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：医療教育協会著『メディカルシステム論』医療教育協会  参考文献：小坂享子・三宅耕三編著『医療管理・事務総論』</p>	

<b>科目名：デザイン計画</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 有田 信夫</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<p><b>【教育目標及び到達目標】</b></p> <p>現代の企業は企業の生存や発展のために、企業独自のイメージ作りにデザイン・コーディネーション計画（CI&lt;corporate identity&gt;計画）を導入している。CI計画の直接的役割は社外に対しては統一感のある好ましい企業イメージの表出であり、社内に向けては社内で働く人々の心の結びつきを育てることである。</p> <p>CI計画は視覚的要素（色・形など）を用いた社名・マーク・ロゴタイプ・商品・商品パッケージ・広告・ユニフォーム・建築などのトータルデザインである。以上CI計画の意味を踏まえて、イメージスケール手法の活用に向けて、その意味を演習を通して理解する。言葉と幾何学的形態との関係性、モノの形状と形容詞、あるいは色彩との関係性を習得する。</p>	
<p><b>【学習上の留意点】</b></p> <p>まずデザインの面接授業は必ず受講してください。面接授業の中でデザインの勉強方法やデザイン材料のことを分かりやすく、具体的に教授いたします。そして課題作品を制作するために、テキストの課題範囲を熟読してください。</p>	
<p><b>【作品作成上のアドバイス】</b></p> <p>下記の課題①、課題②、課題③、課題④、課題⑤から3課題を選択して制作を行い、まとめてレポートとして提出する。</p> <p>課題①第1章CIとは何か、と第2章デザインイメージ・スケール手法を踏まえて企業ポジショニング演習をする。</p> <p>課題②第3章からナチュラル、モダン、ダンディのコーディネートを演習する。</p> <p>課題③第4章から演習課題1、演習課題2、演習課題3の製図をする。</p> <p>課題④第5章のSTOPPINGフェンス（車止め）の基礎造形演習をする。</p> <p>課題⑤お菓子の商品開発計画をする。</p> <p>以上5課題の中から3課題を制作する。</p>	
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <p>課題作品（60%）、面接授業課題作品（40%）</p>	
<p><b>【テキスト及び参考図書】</b></p> <p>テキスト：「生活造形演習」</p> <p>参考文献：小林重順著 日本カラーデザイン研究所編『カラーイメージスケール』講談社 2001年  小林重順著 日本カラーデザイン研究所編『カラーリスト』講談社 1997年  New DECOMAS委員会編著『New DECOMAS デザインコンシャス企業の創造』三省堂 1993年  小林重順著『配色センスの新開発』ダヴィッド社 1997年  小林重順・日本カラーデザイン研究所編著『新・カラーイメージ事典』講談社 1993年</p>	

<b>科目名：食生活実習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 八尋 美希</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 食品の安全・衛生面についての知識を得ながら、栄養素摂取のための調理について、食品の切り方、器具の扱い方、正確な計量方法ならびに食品に合った調理の方法を習得する。さらに、実習を通して主に日常の調理についての技術、技能を身に付ける能力を養う。	
<b>【学習上の留意点】</b> 調理についての基礎知識をテキストから把握し、調理の理論と実践とが関連していることを実感出来るよう日常の食事の際に考えていく。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 1冊目：私たちが知っている行事食はいろいろある。これまでに食した中で印象に残っている行事食をレポートする。いつ、だれとどのようにして食べたか。栄養面や調理科学の面から考察し、行事食の存在意義を説明する。 2冊目：自分の身近な食品から好きな食べもの、嫌いな食べ物をあげ、なぜ自分がその食べ物が好きなのか嫌いなのかをおいしさの要因から考察する。そして人が感じるおいしいとはどういうことなのかを自分の考えで述べる。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 試験問題に対して、自ら要点をまとめノートを作成してみる。日常の食事の中でその現象を確認することも出来るため、興味関心を持って取り組んでほしい。また、基本操作や用語を理解し、ポイントをつかんで記述すること。	
<b>【成績評価方法】</b> 日常の経験や体験および調べた内容から得た内容を基本用語、知識を使いながらも自分の考えに沿ってまとめられているか。また、調理のポイントを理解しているかなどを科目終末試験の結果にもとづき評価する。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：『食生活実習』 参考文献：『七訂食品成分表』※どこかの出版社のものでも構いません。 山崎清子 他著『NEW調理と理論』 南道子、舟木淳子 著『調理学－生活の基盤を考える』 河内公恵「調理学：食品の調理特性を正しく理解するために」化学同人 香西みどり他共著「流れと要点がわかる調理学実習 第2版」光生館	

<b>科目名：インテリアデザイン</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 豊増 美喜</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 住まいの室内空間は、人々の生活を包み込み、毎日の生活の中で最も身近に接している空間である。この室内空間をより快適な室内の環境として創造できるように「もの」とのつながりの中で機能を考え感性を養い、そこで生活する人々の住生活から、より良い住空間を創りだしていくための知識と創意工夫の能力を習得する。	
<b>【学習上の留意点】</b> インテリアデザインの基本となる知識について学ぶ。具体的には室内空間のデザインやコーディネーションの作業に必要な初歩的事項を理解する。理解を深めるために、インテリア雑誌、インテリア広告などを通して、今日的な傾向や自己のイメージをまとめる機会をもつことが望ましい。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> まずテキストを読み、本に示されている室内空間をデザインし、コーディネートする上での基礎的自己を把握し知識を得ること。次に、レポート作成の要となるインテリアのカラー写真を選ぶが、このカラー写真の選び方が適切でないと、課題に沿ったレポート作成につながらない。少なくとも、課題に示す観点の内容を4分の3以上述べられるような室内写真を選ぶこと。家具だけ、照明器具だけ等の写真では、多くの観点から述べることができないため、室内全体がわかるものが良い。 最後に、先にテキストで学んだ知識をもとにして、設題のそれぞれの観点を考慮しながら、不足なくレポートを作成すること。参照した文献やホームページについても記載すること。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> テキストを熟読し、内容の要約を試みて設問に対する考えと知識をまとめておくこと。 各章から出題しているが、章全体を読んでまとめて解答するもの、章の一部から解答するものなど様々であるので、知識を整理しておくこと。	
<b>【成績評価方法】</b> テスト（記述式）を実施する。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：初めてのインテリアコーディネーション（檜垣香恵著 学芸出版社） 初めてのインテリアコーディネーション ガイドブック（坂本久子著 近畿大学九州短期大学 発行）	

<b>科目名：医療福祉秘書学演習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 吉野 美智子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 医療秘書について、日本医師会は「医療秘書は、医療の総括的責任を持つ医師の機能の一部を担い、情報の円滑化に資するなど、広くその業務を補佐する者である」と定義しています。医療秘書の業務は多岐にわたります。医療チームの一員としての機能と役割を理解し、管理者や専門職等、各部門の連絡調整にあたり、患者からも信頼される医療秘書を目指す。 基本的には医療秘書も一般企業の秘書と同じように情報処理と対人業務が主な仕事であるが、医療現場では患者との対応が求められるので、患者心理を理解できる「心」を養い、患者接遇、来客対応、電話応対なども身につけてください。	
<b>【学習上の留意点】</b> 自習、自学の中では理解できないことも多いと思います。不明なことなどがありましたらスクーリングで積極的に聞くようにしてください。レポートや終末試験に関してはスクーリングで詳しく解説します。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> 設問に沿ったレポートを作成してください。 秘書は文書能力も要求されます。文書の構成や誤字脱字等には細心の注意を払い、専門用語など、意味のわからない言葉は辞書で調べる癖をつけてください。下記に紹介している参考文献を参考にしてください。 夏期スクーリングで指導、解説します。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 問題8問の中から3題出題し、解答してもらいます。 夏期スクーリングで指導、解説いたします。テキストとスクーリングで学習したことを中心に出題します。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート、終末試験の結果により評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：メディカルシステム論（一般社団法人 医療教育協会） 参考文献：中村健壽監修 田中伸代ほか編著『現代医療秘書 役割と実務』西文社 2010年 日本病院管理教育協会監修 小坂享子ほか編著『医療管理概説』樹村房 2008年 美馬信ほか編著『医療秘書実務』建帛社 2007年 医療秘書教育全国協議会編『医療秘書（医療秘書実務シリーズ）』建帛社 2003年 萩原久美子著『医療における接遇の基本（医療秘書実務シリーズ）』建帛社 2007年 *授業に必要なプリントは配布します。	

<b>科目名：医療福祉統計</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 澁田 英敏</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> <p>高齢化社会を迎え、医療福祉の一層の充実が望まれています。高度な医療を提供する為には、医療行為を行う医師や看護師だけでなく、事務職員を含めた病院構成員全員の能力向上と合理化が望まれています。これまで、事務職員は系統的な医療教育を受けていませんでしたが、今後は医療福祉分野の情報収集、分類、分析、報告などの業務能力が要求されて来ます。</p> <p>ここでは、医療機関での事務処理に必要な統計的な見方、考え方など基礎的な知識を身に付ける事を目標とします。</p>	
<b>【学習上の留意点】</b> <p>医療機関で使われる各種データについて、これらの本質を見極める手法として、統計的な見方、考え方、分析の仕方等を学習します。</p> <p>医療事務を今一度科学的に見直す良い機会にしましょう。</p>	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> <p>テキストだけでなく、新聞やインターネットなどから情報を得て、自分でよく考え、自分自身の言葉で要領よくまとめてください。</p>	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> <p>テキストをよく読み、理解した上で自分の言葉で書いてください。</p>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>レポート、科目終末試験を総合して行います。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：福富和夫ほか著『ヘルスサイエンスのための基本統計学』南山堂 2002年  参考文献：一条勝夫著『病院統計概論』医学通信社 1993年  今野紀雄著『図解雑学 統計』ナツメ社 1999年</p>	

<b>科目名：医療福祉事務演習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 小川 益美</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 近代医療の高度化に伴い、医療事務担当者に対する専門性と必要性は医療機関において高く評価されている。 それに加え、医療現場においては的確・迅速に受付業務をこなせることが医療従事者としては、必然となる。	
<b>【学習上の留意点】</b> 学習に当たっては、テキスト・点数早見表を活用する。 診療報酬算定に当たっては年齢加算・時間外加算があるため、テキストの解説を読み、該当個所に蛍光サインペンでアンダーラインを引き、以後の学習に役立てる。 その他、概要把握に努め、繰り返し学習すること。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> レポートの作成については、各章毎に順を追って出題していますので、2回目以降の学習において、各章毎のまとめとして取り組んでください。テキスト・点数早見表をしっかりと熟読すれば作成できます。(使用した早見表等の年度を記入してください)	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 科目終末試験は、レセプト作成を中心に実施しますので、面接授業でレセプト作成を理解した上で、受験することが望ましいと思います。(使用した早見表等の年度を記入してください) ※携行品 配本テキスト・点数早見表・医科診療報酬点数表・電卓・筆記用具	
<b>【成績評価方法】</b> レポートおよび科目終末試験の結果により、総合的に判定します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：診療報酬請求の実務・演習 医科診療報酬点数表	

<b>科目名：キャリアデザインⅠ</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 澁田 英敏</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【教育目標及び到達目標】</b> 生きがい情報士の役割とその専門的な知識・技術の修得を目的とします。 我が国の高齢社会の現状と熟年期の健康と生きがいについて総論的に理解できるようになるための科目です。主な内容は、①高齢社会 ②熟年期 ③健康 ④生きがい ⑤生きがい創り支援 ⑥生きがい情報士の役割となります。	
<b>【学習上の留意点】</b> テキストを読めばわかるようになっていますが、さらに勉強したい人は面接授業時に相談してください。	
<b>【レポート作成上のアドバイス】</b> テキストに記述されている指定した用語をキーワードに要点を整理し、作成してください。	
<b>【科目終末試験対策のアドバイス】</b> 問題は、レポートと連動しています。レポート作成とあわせて学習してください。自分の考えを文章にして表現する能力を問われます。	
<b>【成績評価方法】</b> レポート及び科目終末試験の結果を総合して評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：(財)健康・生きがい開発財団著『生きがい情報士養成テキスト』中央法規出版 2008年3月	



# 面接授業科目

<b>科目名：生涯スポーツ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 堀田 亮</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ・幼児期および青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解することができる。 ・子どもや障がい者を対象とした運動・スポーツ活動に関する基礎的な技能を習得する。 ・子どもや障がい者や高齢者を対象とした運動・スポーツ活動のレパートリーを増やすことができる。	
<b>【講義内容】</b> 各種スポーツ（バレーボール、バドミントンなど）の技能の向上を中核目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的、風土的、社会的背景についての理解を深めたい。さらに、「生涯スポーツ」や「Sports for all」の理念を推進していく上での課題を、現代のスポーツ現象（勝利至上主義、商業主義など）を批判的に検討する中で明らかにしていきたい。 また、中核目標である「できる」ことにくわえ、「わかる」ことや「みんながうまくなること」を共通目標に設定し、グループ学習における集団的・組織的活動を重視しながら、「計画の立案－実践－総括－再計画」（保育者として指導計画を作成する際に必要な実践的な思考サイクル）を身につけてもらいたい。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ・地域における様々なスポーツイベントに自主的に参加したり、子どもや障がい者を対象としたスポーツ活動へボランティアとして参加することを通して、地域社会におけるスポーツ活動の現状に対する理解を深めること。 ・授業で体験した運動あそび、レクリエーションゲームを自分なりに工夫して、発展させること。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
1時限目	オリエンテーション、アイスブレイキングゲーム
2時限目	コミュニケーションゲーム
3時限目	子どもを対象とした運動あそび①（ボール）
4時限目	子どもを対象とした運動あそび②（フラフープ、パラバルーン）
5時限目	高齢者や障がい者を対象とした運動・スポーツ（ポッチャ、風船バレー）
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
1時限目	バレーボール①（練習と試しのゲーム）
2時限目	バレーボール②（ルール作り）
3時限目	卓球とバドミントン（練習と試しのゲーム）
4時限目	リーグ戦①（卓球）
5時限目	リーグ戦②（バドミントン）
<b>&lt; 3日目 &gt;</b>	
1時限目	幼児期および青年期以降における運動あそび、スポーツの意義と課題
2時限目	運動あそび、スポーツの指導案作成①（幼児期）
3時限目	運動あそび、スポーツの指導案作成②（青年期）
4時限目	運動あそび、スポーツの実践
5時限目	全体のまとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
毎日のまとめの感想文（35%） 実技中のグループワークへの取り組み（30%） まとめ課題レポート（35%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
配本テキスト 参考文献：玉木正之著「スポーツとは何か」講談社 酒井青樹・峯岸純子著「スロースポーツに夢中！」岩波書店 永井洋一著「少年スポーツ ダメな大人が子供をつぶす！」朝日新書 伊藤数子著「ようこそ、障害者スポーツへ」廣済堂出版	

<b>科目名：IT入門</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> これからの情報社会で必要となる情報機器の仕組みやシステムの把握、情報化を推進するための初歩的な知識などを理解し、業務遂行に役立つ基礎的な技能を身につけることを到達目標とする。	
<b>【講義内容】</b> 情報社会で実際に利用する情報機器について、その特性や機能を理解し、適切に活用できるよう、ITパスポート試験（国家資格）や情報処理活用能力検定（J検）の過去問題を利用して学習を進める。過去問題の解法をグループで検討し、発表するグループワークを取り入れる。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ITパスポート試験（国家資格）や情報活用能力検定（J検）の過去問題はインターネットからダウンロードできるので、ぜひ活用してください。またいろいろな方が解説も公開していますので自学できると思います。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt;1日目&gt;</b>	
<b>1時限目</b>	基礎用語 法務、システム企画、システム戦略など
<b>2時限目</b>	基礎用語 経営戦略、企業活動
<b>3時限目</b>	基礎用語 ビジネスのキーワード、サービスマネジメント
<b>4時限目</b>	過去問題を題材に解法をグループで検討する。
<b>5時限目</b>	過去問題を題材に解法をグループで検討した結果のプレゼンテーション
<b>&lt;2日目&gt;</b>	
<b>1時限目</b>	基礎用語 システム監査、システム開発の技術
<b>2時限目</b>	基礎用語 セキュリティ
<b>3時限目</b>	基礎用語 アルゴリズムとプログラミング
<b>4時限目</b>	過去問題を題材に解法をグループで検討する。
<b>5時限目</b>	過去問題を題材に解法をグループで検討した結果のプレゼンテーション
<b>【成績評価方法】</b> グループ内での積極的発言 30% 基礎用語の理解度 30% 小レポート 40%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：FOM出版「ITパスポート試験 直前対策1週間完全プログラム シラバスVer3.0 準拠（よくわかるマスター）」2016年 1,200円（税別） ITパスポート試験、情報処理活用能力検定の過去問題をダウンロードして使用します。	

<b>科目名：情報処理入門Ⅰ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 現在では、業種・職種を問わずほとんどの職場においてパソコンの利用スキルが求められる。本授業では、特に利用頻度の高い事務系ソフトの基礎的な利活用方法を、演習を通して習得することを目標とする。	
<b>【講義内容】</b> 代表的なオフィススイートである、Word（ワープロ）・Excel（表計算）・PowerPoint（プレゼンテーション）の3つのソフトウェアの概念や利活用方法を概観し、演習を通して理解の定着を図る。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 受講前に、Windowsの基本操作（日本語入力、マウスやキーボードの操作、ファイルのコピー・移動等）を一通り習得していることが望ましい。受講後は、家庭や職場等のパソコンに積極的に触れ、パソコンによる文書作成の機会を増やすことを勧める。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	Wordの基本操作、文字の入力、フォント設定
<b>2 時限目</b>	段落の設定、ページレイアウトの設定、印刷
<b>3 時限目</b>	画像（写真、クリップアート、ワードアート）の取り込みと編集
<b>4 時限目</b>	図形描画機能の利用
<b>5 時限目</b>	Word総合演習（チラシの作成）
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	Excelの基本操作、文字・セル・罫線の設定
<b>2 時限目</b>	計算式の入力、基礎的な関数、Excel総合演習（家計簿の作成）
<b>3 時限目</b>	PowerPointの基本操作、デザインの設定、スライドショーの利用
<b>4 時限目</b>	アニメーションの作成
<b>5 時限目</b>	PowerPoint総合演習（電子紙芝居の作成）
<b>【成績評価方法】</b>	
総合演習70%、授業参加態度30%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
特に指定しないが、必要に応じてWord・Excel・PowerPointに関する市販の参考書を参照することを勧める。	

<b>科目名：英会話 I</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 松原 留美</b> <b>非常勤講師 フィリップス・グレゴリー</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な自己紹介を自分で書く・話す事ができる。</li> <li>・日常生活において使用される単語や表現を理解する。</li> <li>・基本的な英文法を理解し問題を解く事ができる。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <p>身の周りの出来事を題材にした英語表現を学び、それを基にインフォメーションギャップやグループワークで実際に話したり書いたりする練習を行っていく。また、英語を使ったゲームや歌等のアクティビティを行い、楽しく英語を学ぶ。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <p>授業の始めに、簡単な口頭での自己紹介をしてもらいます。</p>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	Introduction
<b>2時限目</b>	Family
<b>3時限目</b>	Music & Games
<b>4時限目</b>	Foods
<b>5時限目</b>	Shopping & Consolidation
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	Introduction 2
<b>2時限目</b>	Hobbies
<b>3時限目</b>	Music 2
<b>4時限目</b>	Writing
<b>5時限目</b>	Test
<b>【成績評価方法】</b>	
<p>授業への積極的態度（50%）、授業内テスト（50%）</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<p>講師作成の資料を配布する。</p>	

<b>科目名：国語表現法</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 皆川 晶</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ・言葉や基本的な文章表現を理解する。 ・文章の構造を意識しながら読むことができる。	
<b>【講義内容】</b> テキストを基にして、文章の理解を深めるために、文章の構成を見ながら読み解いていく。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> テキストを読んでおくこと。日頃から新聞・書物に親しみ、多様な表現方法に接してほしい。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	文章とは
<b>2時限目</b>	文章を書くときの基礎知識
<b>3時限目</b>	自分をみつめる文章
<b>4時限目</b>	意見文
<b>5時限目</b>	問題提起文
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	説明文
<b>2時限目</b>	説得力のある文章
<b>3時限目</b>	文章の理解・要約
<b>4時限目</b>	文章の要約
<b>5時限目</b>	文章表現についての総括
<b>【成績評価方法】</b>	
・1日目の課題 45% ・2日目の課題 45% ・授業への参加態度 10%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：石黒圭著『よくわかる 文章表現の技術Ⅱ—文章構成編—〔新版〕』明治書院 2009年	

<b>科目名：情報処理入門Ⅱ</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> インターネットの技術を用いたWeb利用は、現在ではごく一般になっているが、Webサイトの利活用だけでなく作成するスキルが求められる事が増えてきている。本授業では、Webサイト作成の基本を学び、演習を通してWebサイトを開設するために必要な知識を習得することを目標とする。	
<b>【講義内容】</b> テキストエディタを用いて、基本的なHTMLやCSSを記述しながらWebページを作成していくと共に、フリーのフォトレタッチソフト「GIMP」を用いて、画像作成の概要を理解しながらWebページにコンテンツを挿入していく。また、Webサイト開設に必要な流れについても理解を進める。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> キーボード入力の際、日本語入力時以外に使用するアルファベットや記号のキー配置を押さえておくことが望ましい。受講後は普段閲覧しているWebサイトがどのように作られているか想像しながら閲覧するとともに、実際に自由なテーマでWebサイトを作成することを奨励する。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1 日目 &gt;</b>	
1 時限目	Webサイトとは、Webサイトを作成するにあたっての必要なもの
2 時限目	HTMLのしくみと記述方法
3 時限目	CSSの役割とスタイルシート
4 時限目	CSSによるWebページの装飾
5 時限目	リンクの作成と成型
<b>&lt; 2 日目 &gt;</b>	
1 時限目	メニューバーの作成と成型
2 時限目	画像の基礎および作成するにあたって必要なもの、GIMPの準備方法
3 時限目	GIMPの基本操作
4 時限目	レイヤーの利用と画像変換
5 時限目	テキストコンテンツへの画像挿入およびWebページの公開方法
<b>【成績評価方法】</b>	
総合演習70%、授業参加態度30%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
特に指定しないが、可能であれば、HTML基礎の参考書を参照することをお勧めする。	

<b>科目名：ビジネス実務演習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 吉野 美智子</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ビジネスマナーの目的を理解しビジネスパーソンとして必要な話し方、言葉遣い、電話の応対、慶弔のマナー、ビジネス文書の基本を身につけることを目標にする。	
<b>【講義内容】</b> 講義と演習で授業を進める。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 事前学習としてテキストをよく読んでおくこと。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1 日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	社会人としての心構え
<b>2 時限目</b>	第一印象について
<b>3 時限目</b>	言葉遣いと話し方
<b>4 時限目</b>	電話応対（かけ方）
<b>5 時限目</b>	電話応対（受け方）
<b>&lt; 2 日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	来客応対と名刺の授受
<b>2 時限目</b>	ビジネス文書（社内文書）
<b>3 時限目</b>	ビジネス文書（社外文書）
<b>4 時限目</b>	慶弔と贈答のマナー
<b>5 時限目</b>	まとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
授業への参加度20%    ロールプレイの成績30%    事後確認テスト50%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：藤村やよい編著『ビジネス実務—信頼を得ることの大切さ—』樹村房 2015年 ・授業に必要な資料は配布します。	



<b>科目名：医学一般</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 池田 あずみ</b>	<b>履修区分：共通教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 健康管理学で学んだことを基礎として、医療従事者として知らなければならない一般的な医学の知識を体系的に学ぶことを目標とします。一般的な医学の基礎知識を理解し、看護や臨床検査の概要、臨床基礎データの意味、さらには広く健康状態や疾病などを理解し、医療機関における実務に応用し得る能力を養います。	
<b>【講義内容】</b> 正常な体のしくみを解剖生理学に基づいて学んでいきます。大まかな構造を理解した上で、病気の原因や、病気の起こるメカニズムを把握し、理解を深めていきます。インターネット等のメディアで取り上げられる疾患などにも目を向け、知識のはばを広げていきます。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 教科書や身近にある雑誌、あるいはテレビやインターネットなどで、体や病気について興味・関心を持つように心がけてください。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
1 時限目	解剖生理学 ①体の構造について
2 時限目	解剖生理学 ②骨格系
3 時限目	解剖生理学 ③循環器系・呼吸器系
4 時限目	解剖生理学 ④消化器系
5 時限目	解剖生理学 ⑤感覚器系など
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
1 時限目	病気のマカニズム その①
2 時限目	病気のマカニズム その②
3 時限目	病気のマカニズム その③
4 時限目	まとめの課題
5 時限目	まとめの課題
<b>【成績評価方法】</b> ・面接授業における受講態度 ・面接授業中に提示する課題レポート	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：医療教育協会著『医学一般』医療教育協会 参考文献：竹内修司監修『“からだのしくみ”がよくわかる人体ぬりえ』PHP研究所 2007年 大橋健一ほか著『疾病のなりたちと回復の促進 病理学』医学書院 2015年	

<b>科目名：コンピュータグラフィックスⅠ</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 西中 潤</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> デザイン業界必修の画像編集ソフト「アドビ イラストレータ」の基本的な機能をマスターし、簡単なイラストや立体物などのグラフィックデザイン作品を作成する技能を身につける。	
<b>【講義内容】</b> 社内や地域活動などでちょっとした広報活動の一環としてチラシや印刷物を自由につくることができるように、グラフィックデザインの制作現場で活用されている画像編集ソフト「アドビ イラストレータ」の基本的な使い方をマスターする。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 日頃からモノの形やデザインの話題に関心を持ち、新聞、テレビなどを通してデザイン全般に注意を向けてください。社内で使われている書類のフォーマットや地域活動（回覧板等）のチラシも参考になります。また、基本的なパソコン技能は事前に身につけておいてください。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	イラストレータの基礎    イラストレータ概論
<b>2 時限目</b>	イラストレータの基礎    インターフェイスと使い方
<b>3 時限目</b>	イラストレータの基本    パス作成実習
<b>4 時限目</b>	イラストレータの基本    パス作成実習
<b>5 時限目</b>	イラストレータの基本    パス作成実習
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	イラストレータの活用    デザイン演習
<b>2 時限目</b>	イラストレータの活用    イラスト作成
<b>3 時限目</b>	イラストレータの活用    イラスト作成
<b>4 時限目</b>	イラストレータの応用    課題制作
<b>5 時限目</b>	イラストレータの応用    課題制作
<b>【成績評価方法】</b>	
提出作品の評価    50% 授業への積極的な参加    50%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：『コンピュータグラフィックス』	

<b>科目名：生活情報論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 瑠璃垣 孝一</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 個人・家庭・企業及び地域社会における情報や生活情報について考察・議論でき、高度情報化社会に主体的に対応できる能力を習得する。	
<b>【講義内容】</b> 本講義においては、下記の『生活情報論』テキストの内容を踏まえながら、eコマースのような情報システム、スマートフォンやタブレットのような情報通信端末が産業や家庭に与える影響や今後の動向、受ける恩恵や危険性等を議論したい。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 事前学習として、『生活情報論』テキストを通読することを求める。事後には、インターネットや新聞・雑誌記事等を活用して情報システムや情報通信サービスの最新情報を調査し、一層の理解を深めることを期待する。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	情報化社会
<b>2時限目</b>	情報システムの種類
<b>3時限目</b>	eコマース
<b>4時限目</b>	情報システムが産業や家庭に与える影響
<b>5時限目</b>	情報システムに関する調査及び課題レポート作成
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	情報通信サービスの種類
<b>2時限目</b>	情報通信端末（スマートフォン・タブレット）
<b>3時限目</b>	新しい情報通信端末／サービスが産業や家庭に与える影響
<b>4時限目</b>	スマートフォンの危険性
<b>5時限目</b>	情報通信サービスに関する調査及び課題レポート作成
<b>【成績評価方法】</b>	
課題レポート：70%、授業参加態度：30%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：『生活情報論』	

<b>科目名：社会福祉援助技術</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 田中 加代子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 介護の現場では、社会福祉援助技術への期待が急激に高まっています。在宅・施設にかかわらず、介護福祉の実践においては、計画的対応が必要とされているからです。介護職員は、利用者の自立した生活を支援していくために、社会福祉の専門的諸技術について正確かつ豊かな知識を身につけるとともに、実際にこれらの諸技術を体系的に学習し、演習を通じて系統的に体得、実践できることが求められています。 本科目では、介護サービスの提供において中心的な役割を果たす介護職員など福祉専門職を目指す学生にとって必要な社会福祉援助技術に関する基本知識の習得を目標とします。	
<b>【講義内容】</b> 介護職員初任者研修テキストに基づいて学習します。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> テキスト『介護職員初任者研修テキスト』をよく読んでおいてください。	
<b>【授業計画】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉援助技術とは</li> <li>・社会福祉援助の方法・目的・意義と種類</li> <li>・個別援助技術①機能と原則 構成要素</li> <li>・個別援助技術②展開過程 面接と記録</li> <li>・集団援助技術 基本的視点 意義と機能 援助媒体</li> <li>・地域援助技術 基本的視点 意義と機能</li> <li>・間接援助技術①社会福祉運営管理 社会福祉調査法</li> <li>・間接援助技術②社会活動法 社会福祉計画法 ネットワーク</li> <li>・社会福祉援助の検討課題</li> <li>・補足とまとめ</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> 面接授業中にレポートを作成してもらいます。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> 介護職員初任者研修テキスト編集委員会編『介護職員初任者研修テキスト』（最新版）介護労働安定センター	

<b>科目名：介護技術</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 勝本 良介</b> <b>非常勤講師 北口 敬子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造や機能に関する知識を取得し、基礎的な介護技術を理解することにより、要介護者、介護者双方においてより安全な介護技術を実施することができる。</li> <li>・住み慣れた環境での生活をいつまでも営むことができるよう、自立支援を基本とした介護技術、生活支援を理解する。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事や排泄、入浴、移動といった生活するうえで必要である行為を中心に、ボディメカニクスを活用した体の動き、介助の方法を体験する。</li> <li>・生活支援の在り方として、介護者も含めた身の周り全ての生活環境が及ぼす影響を理解し、その関係性を理解する。</li> </ul>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習…高齢者に多い疾病、障害に関して事前にテキストを読んでおく。 介護保険事業所（施設、在宅）を大まかに把握しておく。</li> <li>・事後学習…介護技術の基礎を理解したうえで、要介護者の状態や場面に応じて柔軟に介護技術を実践できるよう工夫する。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎知識の学習</li> <li>・介護に関するところとからだのしくみの基礎的理解</li> <li>・生活と家事</li> <li>・快適な居住環境整備と介護</li> <li>・整容、入浴に関するところとからだのしくみと自立に向けた介助</li> <li>・移動に関するところとからだのしくみと自立に向けた介助</li> <li>・食事に関するところとからだのしくみと自立に向けた介助</li> <li>・排泄に関するところとからだのしくみと自立に向けた介助</li> <li>・睡眠と死にゆく人に関するところとからだのしくみと自立に向けた介助</li> <li>・生活支援技術演習、実技試験</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面設定した状況での実技試験の実施</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員初任者研修テキスト編集委員会編『介護職員初任者研修テキスト』（最新版）介護労働安定センター</li> </ul>	

<b>科目名：介護実習指導演習</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 澁田 英敏</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 介護実習とは、習得した知識や技術を基盤として、これらを総合的に関連づける力と、介護の実践にこれらの知識や技能を応用する力を養い、高齢者をとりまく介護現場の理解を通して介護の理論と実践の関係について習熟させようとするものです。 介護実習事前事後指導の科目では、その介護実習を円滑に行うために必要な事柄を学習します。具体的には、介護実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えをつくとともに、特に実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につけることを目標としています。	
<b>【講義内容】</b> 介護職員初任者研修テキスト 第4分冊「技術と実践」の内容についても学習します。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 介護実習に参加するための「事前学習」です。不安や疑問があれば、この機会を利用して必ず解消しておきましょう。	
<b>【授業計画】</b> 1. 介護実習の概要 2. 介護施設の理解 3. 実習オリエンテーション 4. 実習の目的と意義 5. 実習の準備と理解	
<b>【成績評価方法】</b> 面接授業中にレポートを作成してもらいます。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> 介護職員初任者研修テキスト編集委員会編『介護職員初任者研修テキスト』（最新版）介護労働安定センター	

<b>科目名：介護実習</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 澁田 英敏</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <p>介護は日常生活行動援助の技術を実践することです。単に知識を習得し、理論を理解するだけでは介護の実践にはなりません。実際に理論に基づいた技術を利用者へ提供することが意義のある介護の実践となります。</p> <p>また、そのためには利用者本位の考え方にに基づき、利用者の生活の質を高めるためにはどんな援助が必要かを意識して実践することが必要となります。</p> <p>介護実習では、この体験によって必要な技術を習得できるようになるだけでなく、自らの人間性を顧み、介護福祉の専門職としての人間性を養うことも目標としています。</p>	
<b>【実習計画】</b> <b>実習参加資格について</b> <p>介護実習に参加するためには、次の面接授業科目を受講し合格しておく必要があります。</p> <p>介護概論・介護技術・介護実習指導演習</p> <b>実習施設等について</b> <p>原則として本学指定の施設で実習します。</p>	
<b>【授業計画】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習オリエンテーション</li> <li>・施設の理解</li> <li>・介護職の役割</li> <li>・チームケア等の理解</li> <li>・他部署の理解</li> <li>・他部署との連携</li> <li>・振り返り</li> <li>・指導担当者との振り返り</li> <li>・利用者とのコミュニケーション</li> <li>・利用者の理解</li> <li>・個別ケアの理解</li> <li>・報告書立案</li> <li>・グループワーク</li> <li>・実習報告</li> <li>・反省会／報告書作成</li> </ul> <b>【成績評価方法】</b> <p>実習における評価を重視します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>介護職員初任者研修テキスト編集委員会編『介護職員初任者研修テキスト』（最新版）介護労働安定センター</p>	

<b>科目名：色彩演習</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 有田 信夫</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 色彩が生活の中で果たしている役割、効果について理解を深め、実際にデザイン制作の中で色を使用できるように色彩の基礎知識と使用方法の理論を習得する。	
<b>【講義内容】</b> 色彩の基礎知識と実際にデザイン制作の中でプロとして色を使用できるように日本カラーデザイン研究所の180色彩シートを使用し、カラーの基礎知識と配色方法を学ぶ。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 事前学習で通信テキストの生活デザイン演習 (P82～P115)、巻末のカラーシステムの1色相、3トーンのイメージ、三色配色イメージの例題をしっかりと読み、意味を考えながら番号の色を同じ番号のところに貼って学習する。 事後学習では言葉・イメージ・色彩が等価交換できるように実践で上達していく。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt;1日目&gt;</b>	
1時限目	色とは何か
2時限目	色・言葉・イメージ
3時限目	カラーシステム、知っている一般色、慣用色
4時限目	配色（まとまりの配色、きわだちの配色、グラデーション、セパレーション）
5時限目	色相配色、トーン配色、基調と強調
<b>&lt;2日目&gt;</b>	
1時限目	色彩計画（まとまり－エレガント）Ⅰ・Ⅱ
2時限目	色彩計画（きわだち－カジュアルな）Ⅰ・Ⅱ
3時限目	色彩計画（まとまり&まとまり－クリアな）Ⅰ・Ⅱ
4時限目	色彩計画（言葉から色彩）巻末1年
5時限目	講評
<b>【成績評価方法】</b>	
作品制作（60％） 授業参加への積極的度合（40％）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：『生活デザイン演習』（P82から巻末まで）	



<b>科目名：ファッションデザイン</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 加來 卯子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ファッションデザインの快適性、運動性、清潔性を重視した基礎的知識を習得する。 健康、快適、安全でしかも美しいファッション生活を営むスキル（技能）を獲得する。	
<b>【講義内容】</b> 着用目的に合った被服を選択し、着装に工夫をこらし、合理的な管理ができる事柄をテーマとしたファッションデザインの基本を学習する。実践的な課題として、テーマによるイメージを形にしてビジュアルに表現し、ファッションデザインのバランス力を高める。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ・授業計画の内容を確認し、デザインの要素となる部分を読んでおくこと。 ・新聞、雑誌、TV、インターネットの情報について日常的に興味・感心を持つようにすること。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
1時限目	デザインとファッションデザインについて
2時限目	ファッションデザインの基礎
3時限目	ファッションデザイン演習 ①形
4時限目	ファッションデザイン演習 ②色
5時限目	ファッションデザイン演習 ③素材
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
1時限目	ファッションデザイン演習 ④構成
2時限目	デザインとイメージ
3時限目	ファッションイメージ別デザイン
4時限目	ファッションイメージのファッションマップ作り①
5時限目	ファッションイメージのファッションマップ作り②
<b>【成績評価方法】</b>	
面接授業中に提示する課題 35% 授業への積極的参加 15% 作品課題（演習）50%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：「服飾デザイン」 プリント資料配布、ビデオ	

<b>科目名：介護概論</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 土居 孝男</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の概念や理念、「基本的人権」と「尊厳」を支えるための職業倫理が理解できる。</li> <li>・有する能力に応じ、自立した日常生活を送って頂くための、具体的な援助方法が理解できる。</li> <li>・感染症や事故等に対する安全の確保と、リスクマネジメントを理解できる。</li> <li>・多職種連携の重要性と、介護職の役割が理解できる。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が個人として尊重され、地域社会とのつながりを保ちながら可能な限り自立した日常生活が送れるよう支援するための基本的援助方法を学習する。また、講義と合わせて実際の事例を通したグループ討議を積極的に行い、個別的な援助を行う重要性を理解する。</li> </ul>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <p>(事前学習) 使用するテキストの該当箇所を読むこと。また、介護に関するテレビ・新聞等の最新情報に関心を持ち、グループ討議等の際に自身の意見を述べられるよう備えること。</p> <p>(事後学習) 講義や演習で学んだことの振り返りを行い、今後自身がどのように活用していくかを検討する。</p>	
<b>【授業計画】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の仕事と働く現場の理解</li> <li>・人権と尊厳を支える介護</li> <li>・自立に向けた介護</li> <li>・介護職の役割、専門性と多職種との連携</li> <li>・介護職の職業倫理</li> <li>・介護における安全の確保とリスクマネジメント</li> <li>・介護職の安全</li> <li>・障害の基礎的理解</li> <li>・障害の医学的側面の基礎的理解</li> <li>・家族の心理の理解、かわり支援の理解</li> </ul>	
<b>【成績評価方法】</b> <p>通信授業と面接授業の試験結果を総合して評価します。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>テキスト：介護職員初任者研修テキスト編集委員会編「介護職員初任者研修テキスト」(最新版) 介護労働安定センター</p>	

<b>科目名：生活デザイン基礎演習</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 有田 信夫</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> デザインの基礎演習である表現技術の習得と基礎デザインの制作である。デザインをする者は頭の中で浮かんだイメージやアイデアを即刻描写出来、造形していく能力が必要である。その為には、まずデザインに使われる用具や技法を知り、表現技術を習得し、表現に関する原理を学び、自然を観察する目を養うことである。自然ほどすぐれた形態と色を持った対象物は他にない。	
<b>【講義内容】</b> 本演習ではデザインで表現するための用具や表現技法、自然観察、スケッチ技法、造形の要素について解説し、演習を通じて鋭い観察力、表現力を高め、造形的に優れた感性を育てることを目標とするので授業計画にそって基礎から応用まで丁寧に指導いたします。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ○面接授業の前にシラバスを熟読し、その授業計画のテーマにそって通信テキストを事前に学習しておくこと。 ○面接授業で指導されたことを思い出しながら今度は自分で作品を制作することが大切である。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	デザイン基礎演習のガイダンス
<b>2時限目</b>	遠近法について
<b>3時限目</b>	遠近による表現
<b>4時限目</b>	表現技術の習得（トーンの付け方）①立方体
<b>5時限目</b>	②球 ③円柱
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	表現技術の習得と造形力演習（立方体の構成）
<b>2時限目</b>	立方体の構成
<b>3時限目</b>	立方体の表現と空間表現
<b>4時限目</b>	小枝の拡大表現（クロッキー帳に輪郭線で描く）
<b>5時限目</b>	画用紙4つ切に表現
<b>【成績評価方法】</b>	
課題作品（60％） 面接授業態度（40％）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：「生活デザイン演習」 テキストの巻末の参考図書の欄を参照すること。	

<b>科目名：簿記入門</b>	<b>開講学年：1年次</b>
<b>担当：非常勤講師 岩武 一郎</b>	<b>単位数：1単位</b>
<b>履修区分：専門教育科目</b>	
<b>【到達目標】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義においては、簿記の基本的な考え方を理解した上で、日商簿記検定3級レベルの内容を理解することを到達目標とする。</li> </ul>	
<b>【講義内容】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの第1章から第7章に沿って、簿記の目的や簿記一巡の手続き、仕訳の方法や決算整理手続きについて説明を行います。</li> <li>・簿記はスキルの習得が大切ですから、それぞれの章に関する練習問題を、実際に手を動かしながら解く作業を行います。</li> </ul>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習は特に必要ありませんが、講義後にはテキストの練習問題の解き直しを行ってください。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	第1章 簿記の目的と貸借対照表・損益計算書
<b>2時限目</b>	第2章 仕訳と帳簿記入
<b>3時限目</b>	第3章(1) 現金・当座預金取引
<b>4時限目</b>	第3章(2) 商品売買・その他の債権債務
<b>5時限目</b>	第4章(1) 手形取引
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	第4章(2) 有価証券や固定資産の取得と売却
<b>2時限目</b>	第5章 決算手続(1)
<b>3時限目</b>	第6章 決算手続(2)
<b>4時限目</b>	第7章(1) 財務諸表の作成・伝票会計
<b>5時限目</b>	第7章(2) 帳簿書類
<b>【成績評価方法】</b>	
試験、面接授業日数、授業態度を総合的に評価する。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：穂坂治宏『新なるほど合格塾日商簿記3級』中央経済社 参考文献：末永英男・北口りえ・岩武一郎著『基礎簿記入門』中央経済社 電卓（10桁以上のもの）を用意	

<b>科目名：社会福祉基礎演習</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 藤村 昌憲</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 社会福祉を取り巻く環境の変化に対し、国民の福祉需要の増大・多様化に適切に対応するため社会福祉基礎構造改革が進められています。この改革においては、利用者本位の利用制度への転換、社会福祉事業の推進、地域福祉の充実と並んで、質の高い福祉サービスの拡充を図ることが改革の大きな柱のひとつとなっています。いうまでもなく、福祉サービスの質の向上を図っていくためには、その担い手となる人材の質の確保・向上が不可欠です。 そこで、本科目では福祉サービスの提供において中心的な役割を果たす介護職員など福祉専門職を目指す人にとって必要な社会福祉制度に関する基本知識の習得を目標としています。	
<b>【講義内容】</b> 高齢者や障害者の方から相談されても適切な対応ができるように正しい知識を身につけてください。日本は国民の4人に1人が高齢者で超高齢社会となりました。身につけた知識は介護職員の仕事以外（プライベート）でも必ず役に立つはずです。 面接授業では、「介護職員初任者研修テキスト」に基づいて学習します。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> テキスト『介護職員初任者研修テキスト』をよく読んでおいてください。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	福祉サービスの基本視点①福祉の理念、ケアサービスの意義
<b>2時限目</b>	福祉サービスの基本視点②サービス提供の視点・サービス利用の視点
<b>3時限目</b>	社会福祉制度①老人福祉制度 老人医療制度 後期高齢者医療制度
<b>4時限目</b>	社会福祉制度②障害者福祉制度 児童福祉制度
<b>5時限目</b>	利用者の理解①障害 疾病
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	利用者の理解②高齢者の心理 障害者の心理
<b>2時限目</b>	利用者の理解③家族 地域社会
<b>3時限目</b>	老化と障害 身体や心の変化 健康の維持 社会活動
<b>4時限目</b>	認知症の理解 社会状況と家族 医学的理解 予防と対策 身体や心の変化
<b>5時限目</b>	補足とまとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
通信授業と面接授業の試験結果を総合して評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：介護職員初任者研修テキスト編集委員会編『介護職員初任者研修テキスト』介護労働安定センター（最新版）	
参考文献：高齢社会白書最新版 内閣府、国民生活基礎調査 最新版	

<b>科目名：住居設計</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 豊増 美喜</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 住居の設計で基礎となる平面計画に必要な知識や、設計図面作成の知識および技術を習得する。 2次元CADソフトJW-CADを用い、CADで基本的な平面図を作成できるようになる。	
<b>【講義内容】</b> 住居設計に関し、平面計画の考え方やゾーニング、動線計画、製図の基礎的表示方法等を習得する。 CADの基本的操作を身につけるため、2次元CADソフトJW-CADを用い、住宅の平面図を作図する。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 授業前は、住宅系の雑誌、広告の平面図などに目を通し、住宅図面に関する知見を深めておくこと。 授業後も、住宅系の雑誌、広告の平面図などを利用し、空間のつながりや間取りについて考えていくこと。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	平面計画の意義
<b>2時限目</b>	住居の内部計画（住空間計画演習）
<b>3時限目</b>	JW-CAD（基本操作）
<b>4時限目</b>	JW-CAD（第三角法による正投影図）
<b>5時限目</b>	JW-CAD（第三角法による正投影図、寸法の記入）
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	JW-CAD（住宅平面図の作成：図面の理解）
<b>2時限目</b>	JW-CAD（住宅平面図の作成：基本線、壁、建具等）
<b>3時限目</b>	JW-CAD（住宅平面図の作成：家具、床仕上げ等）
<b>4時限目</b>	JW-CAD（住宅平面図の作成：寸法、方位等）
<b>5時限目</b>	完成図面のチェックとまとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
面接授業中に掲示する課題レポート40%、作品制作過程および作品の提出60%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：『住居設計』 プリント資料配布	

<b>科目名：健康管理学</b>	<b>開講学年：1年次</b>
<b>担当：非常勤講師 池田 あずみ</b>	<b>単位数：1単位</b>
<b>履修区分：専門教育科目</b>	
<b>【到達目標】</b>	
<p>健康は誰しも望むところではあるが、この健康を医学、生物学的な側面からとらえれば、生理・栄養・運動などの問題である。しかし精神的な側面からとらえれば生の問題であり、さらに死の問題をもふくむ。社会の多様化に伴い、我々の生活環境には身体の健康と心の健康に対する様々な危険因子が潜んでいるといえる。それには回避できるもの、回避困難なものがある。</p> <p>この科目では、このような複雑な生活環境の下で快適な生活を営むためにはどのような健康管理を必要とするか、そのために必要な知識を学ぶ。</p>	
<b>【講義内容】</b>	
<p>健康とは、そして健康な状態を維持・管理していくためにはどのようなことが必要であるかを学ぶ。現代の時代背景をふまえ、高齢者についての理解を深めたり生活習慣病に対しての意識を高め、疾病の予防について知識を深めていきます。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b>	
<p>教科書や身近にある雑誌、あるいはテレビやインターネットなどで、体や病気について興味・関心を持つように心がけてください。</p>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
1時限目	健康の概念①
2時限目	健康の概念②
3時限目	生活習慣病について①
4時限目	生活習慣病について②
5時限目	まとめの課題
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
1時限目	高齢者について①
2時限目	高齢者について②
3時限目	高齢者について③
4時限目	健康の維持・管理
5時限目	まとめの課題
<b>【成績評価方法】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接授業における受講態度</li> <li>・面接授業中に提示する課題レポート</li> </ul>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<p>テキスト：『健康管理学』</p> <p>参考文献：木村康一ほか著『学生のための健康管理学』南山堂 2012年 岸玲子ほか著『NEW予防医学・公衆衛生学』南江堂 2012年</p>	

<b>科目名：公衆衛生学</b>	<b>開講学年：1年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 辻 雅善</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ・公衆衛生学の概要及びその必要性について説明できる。 ・人々の健康に及ぼす要因について説明できる。 ・疾病構造の変化と予防について説明できる。 ・身近な公衆衛生上の問題及び課題について私見を述べることができる。	
<b>【講義内容】</b> 公衆衛生学及びその重要性について解説をする。健康が環境と深く関わっていることが理解できるように身近なことから説明をする。自分の健康に関心が持てるように日常生活上の事柄を中心に話を進める。また疾病予防・疾病の早期発見のために必要な知識について解説をする。今話題となっている事から様々な課題が考察できるように解説をする。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 公衆衛生に関する情報は新聞インターネット等身近なところから沢山収集できるため、日頃から関心をもって見ておく。テキストを予め読んで、一つの問題から様々な課題が見えて来ることを理解しておく。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1 日目 &gt;</b>	
1 時限目	公衆衛生学概論
2 時限目	健康の指標
3 時限目	感染症・感染症対策
4 時限目	食品保健・栄養
5 時限目	環境保健
<b>&lt; 2 日目 &gt;</b>	
1 時限目	社会保障
2 時限目	高齢者保健
3 時限目	母子保健
4 時限目	成人保健・生活習慣
5 時限目	産業保健
<b>【成績評価方法】</b>	
終了時試験（40％） 授業への参加態度（30％） 授業時小テスト（30％）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：清水忠彦・佐藤拓代 編集「わかりやすい公衆衛生学」ヌーヴェルヒロカワ 2015年 2,200円（税別） 参考文献：石川哲也他 著「イラスト公衆衛生学」東京教学社 厚生労働統計協会 編集「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 他	



<b>科目名：介護保険事務概論</b>	<b>開講学年：2年次</b>
	<b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 深水 正史</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b>	
<p>介護保険制度のスタートに伴い、介護事務担当者に対する専門性（保険・福祉・医療）と必要性は介護サービス事務所、介護支援事業所及び介護施設等において広く求められている。</p> <p>本講では、介護保険や介護給付費（報酬）の請求事務について、テキストの基本事項に加え実務を取り入れた知識の習得を行い、介護給付費請求の正しい単位の算出、金額算定を的確に行う能力を養う。</p>	
<b>【講義内容】</b>	
<p>福祉・介護等に従事することは、高齢者や障害者に対し、尊厳を重視し支える仕事であります。また、そのような利用者に接し、支援することは、夢と希望と熱意を傾けれる仕事であるということを確認してください。</p> <p>授業は、介護保険制度（保健・福祉・医療）全般に講義を行います。また、サービス事業所の設置及び運営基準も習熟してもらいます。そのような制度全般を理解した上で、介護報酬給付費（報酬）請求書の作成を熟知するために演習中心で授業を行うので、電卓を持参してください。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b>	
<p>1. 介護給付費（単位）は3年に1度改正が行われることになっています。テキストは「介護報酬の解釈」を用い授業を進めます。</p> <p>2. 介護給付費算定に当たっては、所定単位以外に医科診療報酬点数（老人保険）、公費負担医療等複雑になっており、基礎をしっかり掴み、介護給付費請求書等の正しい請求を繰り返し学習してください。</p>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	介護保険制度 成立と背景
<b>2 時限目</b>	介護保険制度のしくみ①保険財政 保健給付
<b>3 時限目</b>	介護保険制度のしくみ②要介護認定 給付水準
<b>4 時限目</b>	介護保険制度のしくみ③介護サービス
<b>5 時限目</b>	介護保険制度のしくみ④利用料と自己負担 介護報酬の流れ
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	介護報酬①在宅サービス 施設サービス 地域密着型サービス
<b>2 時限目</b>	介護報酬②福祉用具 住宅改修 居宅介護支援
<b>3 時限目</b>	介護報酬③訪問系サービス 通所系サービス 特定施設入所者介護
<b>4 時限目</b>	介護報酬の計算 明細の理解 計算実務
<b>5 時限目</b>	補足とまとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
面接授業の単位修了試験の結果により総合的に判定します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
『介護報酬の解釈1 単位数表編』社会保険研究所	
『介護報酬の解釈2 指定基準編』社会保険研究所	

<b>科目名：介護保険事務演習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 深水 正史</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 介護保険制度のスタートに伴い、介護事務担当者に対する専門性（保険・福祉・医療）と必要性は介護サービス事務所、介護支援事業所及び介護施設等において広く求められている。 本講では、介護保険や介護給付費（報酬）の請求事務について、テキストの基本事項に加え実務を取り入れた知識の習得を行い、介護給付費請求の正しい単位の算出、金額算定を的確に行う技能を養う。	
<b>【講義内容】</b> 福祉・介護等に従事することは、高齢者や障害者に対し、尊厳を重視し支える仕事であります。また、そのような利用者に接し、支援することは、夢と希望と熱意を傾けれる仕事であるということを確認してください。 授業は、介護保険制度（保健・福祉・医療）全般に講義を行います。また、サービス事業所の設置及び運営基準も習熟してもらいます。そのような制度全般を理解した上で、介護報酬給付費（報酬）請求書の作成を熟知するために演習中心で授業を行うので、電卓を持参してください。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 1. 介護給付費（単位）は3年に1度改正が行われることになっています。テキストは「介護報酬の解釈」を用い授業を進めます。 2. 介護給付費算定に当たっては、所定単位以外に医科診療報酬点数（老人保険）、公費負担医療等複雑になっており、基礎をしっかり掴み、介護給付費請求書等の正しい請求を繰り返し学習してください。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	介護保険制度の理解と介護報酬のしくみ
<b>2時限目</b>	介護報酬①訪問介護 訪問入浴介護
<b>3時限目</b>	介護報酬②訪問看護 訪問リハビリテーション
<b>4時限目</b>	介護報酬③通所介護 通所リハビリテーション
<b>5時限目</b>	介護報酬④短期入所生活介護 短期入所療養介護
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	介護報酬⑤特定施設入所者生活介護
<b>2時限目</b>	介護報酬⑥居宅療養管理指導 居宅介護支援
<b>3時限目</b>	介護報酬⑦施設サービス 地域密着型サービス
<b>4時限目</b>	介護報酬⑧福祉用具購入 住宅改修 福祉用具貸与
<b>5時限目</b>	補足とまとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
面接授業の単位修了試験の結果により総合的に判定します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
『介護報酬の解釈1 単位数表編』社会保険研究所 『介護報酬の解釈2 指定基準編』社会保険研究所	

<b>科目名：医療福祉管理特別講義</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 宮本 秀和</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> ・医療従事者としての役割について述べることができる。 ・医療事務の資格取得に必要な事項について詳細に説明できる。	
<b>【講義内容】</b> 医療をとり巻く社会環境について、歴史的変遷を含め解説をする。 医師法・医療法・医療保険・医療と情報等について解説をする。 最近の資格試験の動向について分析し解説をする。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 関係する法律（医師法・医療法・医療保険等）について学習しておく。 自ら過去問題をひもといて丁寧に学習する。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
1時限目	医療と社会（歴史的変遷・社会的機能）
2時限目	病院組織と経営
3時限目	医療法Ⅰ 目的・沿革
4時限目	医療法Ⅱ 条文及び解説
5時限目	医師法 目的・沿革・条文及び解説
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
1時限目	医療保険Ⅰ 保険の種類
2時限目	医療保険Ⅱ 医療保険制度
3時限目	医療と情報Ⅰ 内容・活用・管理
4時限目	医療と情報Ⅱ 個人情報保護
5時限目	その他の関連法・資格試験の動向・まとめ
<b>【成績評価方法】</b>	
レポートの内容（50%） 授業への参加態度（50%）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：メディカルシステム論（一般社団法人 医療教育協会）	

<b>科目名：デザイン計画</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 有田 信夫</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> デザインのモノやコトについて調べ、NCD法（新しい物差しの感性ソフト）で分析し、デザイン計画を提案する方法を身につける。	
<b>【講義内容】</b> デザインを計画するために、まずNCD法について説明し、演習によってNCD法に習熟する。実際にモノのデザインをテーマにそって計画する。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 面接授業の前に通信のテキストをあらかじめよく読み、分らないところや自分のデザイン計画の課題点を考える。面接授業が終わった後に通信授業科目を行い、仕上げる。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
1時限目	デザインとは何か。またデザイン計画についてのガイダンス
2時限目	デザイン計画とNCD法についての説明と演習
3時限目	開発対象商品の現状イメージ分析、イメージマップ制作
4時限目	開発ポリシーやテーマを考察Ⅰ
5時限目	開発ポリシーやテーマを考察Ⅱ
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
1時限目	イメージターゲットの明確化
2時限目	デザインコンセプトの明確化
3時限目	コンセプト作成。コーディネート・ボードの作成
4時限目	デザイン展開。イメージスケッチによる表現・展開
5時限目	発表、講評
<b>【成績評価方法】</b>	
デザイン計画作品（60％） 授業への積極的参加（40％）	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：『生活造形演習』日本カラー研究所（NCD法）	

<b>科目名：食生活実習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 八尋 美希</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> <p>日常の食事作りの基本を学び、食品の安全・衛生の知識を得ながら、健康づくりの維持増進となるバランスのよい理想の食事とはどのようなものであるか食事計画を立てることができることを目標とする。</p>	
<b>【講義内容】</b> <p>乱れた食生活やそれが原因で生活習慣病になるきっかけとなることがある。しかし、毎日の食事について見直し、予防することも可能である。毎回の食事を自分で作れる技術と技能を身に付け、体調管理が出来、質の高い食事となるような実践的な能力を養う。講義は食品・食材などの安全と衛生面を理解し、調味の仕方や食事計画の作成方法についても学習する。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの内容を熟読しておくこと。</li> <li>・日常の食事とはどのようなものが最適であるか、まとめておく。</li> <li>・生活の質の維持向上のための食事計画を考える。</li> </ul>	
<b>【授業計画】</b>	
< 1日目 >	
1 時限目	調理を始める前の準備（計量と調理器具の扱い方）
2 時限目	調理実習（調理の基本）
3 時限目	調理実習（調理の基本）
4 時限目	食品の安全と衛生
5 時限目	食品添加物
< 2日目 >	
1 時限目	調理の過程と食事（食事計画）
2 時限目	調理実習（料理の過程）
3 時限目	調理実習（料理の過程）
4 時限目	バランスのよい食事の計画
5 時限目	バランスのよい食事の計画
< 3日目 >	
1 時限目	調理実習（ライフステージ別の食事）
2 時限目	調理実習（ライフステージ別の食事）
3 時限目	調理実習（ライフステージ別の食事）
4 時限目	バランスがよい理想の食事の発表
5 時限目	まとめ
<b>【成績評価方法】</b> <p>スクーリング中の積極的な参加40%。課題提出40%。技術点20%。</p>	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> <p>「食生活実習」：本学テキスト、「NEW調理と理論」：山崎清子、渋谷祥子、下村道子、杉山久仁子、同文書院</p>	

<b>科目名：インテリアデザイン</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 豊増 美喜</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> インテリアのスタイル、色彩、内装材など、インテリアデザインに関する基礎的知識を身につける 自己のイメージをプレゼンテーションボードに表現し、第三者に伝える基礎的技術を習得する。	
<b>【講義内容】</b> インテリアのスタイル、色彩、内装材など、インテリアデザインに必要な基礎的事項を学んだ後、 プレゼンテーションボードの作成を通じて理解と表現力を深める。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> 授業前に、インテリア雑誌、広告などを通して、自己のイメージをまとめること。 授業後に、引き続きインテリア雑誌、広告などを通して、インテリアの今日的な傾向などを知ること。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt;1日目&gt;</b>	
<b>1時限目</b>	インテリアデザインとは
<b>2時限目</b>	インテリアのスタイル（日本・西洋）
<b>3時限目</b>	色彩、内装材、各室の室内計画
<b>4時限目</b>	プレゼンテーションボード課題説明
<b>5時限目</b>	プレゼンテーションボードの作成（対象室の選択）
<b>&lt;2日目&gt;</b>	
<b>1時限目</b>	ワークスタイルに合ったインテリアデザインの事例紹介
<b>2時限目</b>	プレゼンテーションボードの作成（家具、内装材、家電の選択）
<b>3時限目</b>	プレゼンテーションボードの作成（家具配置図作成）
<b>4時限目</b>	プレゼンテーションボードの作成（家具配置図貼付）
<b>5時限目</b>	プレゼンテーションボードの完成（設計趣旨作成）
<b>【成績評価方法】</b>	
面接授業中に掲示する課題レポート40%、作品制作過程および作品の提出60%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：檜垣香恵著『初めてのインテリアコーディネーション』学芸出版社 プリント資料配布	

<b>科目名：医療福祉秘書学演習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：准教授 吉野 美智子</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 患者心理を理解し患者に「何がしてあげられるか」、患者が「何を望んでいるか」を考え、窓口業務を行うことができるようになる。	
<b>【講義内容】</b> 講義の後、ケースごとの窓口対応における患者心理を理解しながらグループ学習し、ロールプレイングをビデオで撮影し、その後クラス討議をする。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> ケースごとにグループでグループ討議をし、クラス討議の後事後確認テストを行う。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	医療秘書の形態と役割
<b>2時限目</b>	医療事務と医事課
<b>3時限目</b>	医療秘書のコミュニケーション・患者の心理
<b>4時限目</b>	患者接遇（初診受付）
<b>5時限目</b>	ロールプレイ
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	患者接遇（会計業務）
<b>2時限目</b>	ロールプレイ
<b>3時限目</b>	患者接遇（高齢者・障害がある人・クレーム・電話での問い合わせ）
<b>4時限目</b>	ロールプレイ（電話での問い合わせ）
<b>5時限目</b>	まとめ
<b>【成績評価方法】</b> 授業への参加度20%    ロールプレイの成績30%    事後確認テスト50%	
<b>【テキスト及び参考図書】</b> テキスト：メディカルシステム論（一般社団法人 医療教育協会） 参考文献：「現代医療秘書」役割と実務（西文社） 「患者接遇マナー」基本テキスト（日本能率マネジメントセンター） 「改訂医療秘書」（建帛社）など持っているものをお持ちください。 *授業に必要な資料は配布します。	

<b>科目名：医療福祉統計</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 澁田 英敏</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 高齢化社会を迎え、医療福祉の一層の充実が望まれています。高度な医療を提供する為には、医療行為を行う医師や看護師だけでなく、事務職員を含めた病院構成員全員の能力向上と合理化が望まれています。これまで、事務職員は系統的な医療教育を受けていませんでしたが、今後は医療福祉分野の情報収集、分類、分析、報告などの業務能力が要求されて来ます。 ここでは、医療機関での事務処理に必要な統計的な見方、考え方など基礎的な知識を身に付ける事を目標とします。	
<b>【講義内容】</b> 医療事務を今一度科学的に見直す良い機会にしましょう。 統計の基礎について演習を交えて学習します。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> テキストや参考文献として挙げているものをよく読んでおいてください。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
1時限目	統計の基本
2時限目	平均と分散
3時限目	標準偏差
4時限目	正規分布
5時限目	歪度と尖度
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
1時限目	実践問題 平均
2時限目	実践問題 度数分布
3時限目	実践問題 分散と標準偏差
4時限目	実践問題 信頼区間
5時限目	実践問題 $\chi$ 二乗検定
<b>【成績評価方法】</b>	
面接授業を総合して行います。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：福富和夫ほか著『ヘルスサイエンスのための基本統計学』南山堂 2002年 参考文献：一条勝夫著『病院統計概論』医学通信社 1993年 今野紀雄著『図解雑学 統計』ナツメ社 1999年	



<b>科目名：医療福祉事務演習</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：非常勤講師 小川 益美</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b>	
<p>近代医療の高度化に伴い、医療事務担当者に対する専門性と必要性は医療機関において高く評価されている。</p> <p>それに加え、医療現場においては、的確・迅速に受付業務をこなせることが医療従事者としては、必然となる。</p>	
<b>【講義内容】</b>	
<p>各種保険やその仕組み、又、診療費の請求事務についての知識を習得し、診療録（カルテ）から医師の診療行為を読み取り、正しい点数の算出・料金算定を的確に行う技能を養う。</p>	
<b>【事前学習及び事後学習】</b>	
<p>学習に当たっては、テキスト・点数早見表を活用する。</p> <p>診療報酬算定に当たっては、年齢加算、時間外等加算があるため、テキストの解説を読み、該当箇所に蛍光サインペンでアンダーラインを引き、以後の学習に役立てる。</p> <p>その他、概要把握に努め、繰り返し学習をすること。</p>	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	医療保険制度について
<b>2時限目</b>	医療保険の仕組み、種類について
<b>3時限目</b>	初診料の算定方法について
<b>4時限目</b>	再診料の算定方法について
<b>5時限目</b>	往診療の算定方法について
<b>&lt; 2日目 &gt;</b>	
<b>1時限目</b>	投薬の算定方法について
<b>2時限目</b>	注射の算定方法について
<b>3時限目</b>	検査の算定方法について
<b>4時限目</b>	診療報酬明細書（レセプト）の作成方法について
<b>5時限目</b>	まとめの課題
<b>【成績評価方法】</b>	
授業時の課題レポートとまとめの課題レポートにより判定	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
<p>テキスト：診療報酬請求の実務、演習 医科診療報酬点数表</p>	

<b>科目名：キャリアデザインⅠ</b>	<b>開講学年：2年次</b> <b>単位数：1単位</b>
<b>担当：教授 澁田 英敏</b>	<b>履修区分：専門教育科目</b>
<b>【到達目標】</b> 生きがい情報士の役割とその専門的な知識・技術の修得を目的とします。	
<b>【講義内容】</b> 我が国の高齢社会の現状と熟年期の健康と生きがいについて総論的に理解できるようになるための科目です。主な内容は、①高齢社会 ②熟年期 ③健康 ④生きがい ⑤生きがい創り支援 ⑥生きがい情報士の役割となります。	
<b>【事前学習及び事後学習】</b> テキストを読めばわかるようになっていますが、さらに勉強したい人は面接授業時に相談してください。	
<b>【授業計画】</b>	
<b>&lt; 1 日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	生きがいづくり総論
<b>2 時限目</b>	健康管理
<b>3 時限目</b>	余暇・趣味・生涯学習
<b>4 時限目</b>	社会参加
<b>5 時限目</b>	就労・企業
<b>&lt; 2 日目 &gt;</b>	
<b>1 時限目</b>	ライフプランと経済金融
<b>2 時限目</b>	福祉・生活支援
<b>3 時限目</b>	仲間作り援助技術
<b>4 時限目</b>	情報検索技術
<b>5 時限目</b>	広報技術
<b>【成績評価方法】</b>	
面接授業を総合して評価します。	
<b>【テキスト及び参考図書】</b>	
テキスト：(財)健康・生きがい開発財団著『生きがい情報士養成テキスト』中央法規出版 2008年3月	

